

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年9月12日

【事業年度】 第67期（自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日）

【会社名】 株式会社サンオータス

【英訳名】 SUNAUTAS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 北野 俊

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目4番15号

【電話番号】 045 - 473 - 1211

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 保坂 和明

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目4番15号

【電話番号】 045 - 473 - 1211

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 保坂 和明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成30年7月24日に提出いたしました第67期（自平成29年5月1日至平成30年4月30日）有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1. 主要な経営指標等の推移
2. 沿革

第2 事業の状況

2. 事業等のリスク
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 提出会社の状況

6. コーポレート・ガバナンスの状況等

第5 経理の状況

1. 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

(2) その他

2. 財務諸表等

(1) 財務諸表

3 【訂正箇所】

訂正箇所が多数に及ぶことから、当該訂正事項を含め、有価証券報告書の全体を一括して記載しております。なお、訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月		平成26年 4月	平成27年 4月	平成28年 4月	平成29年 4月	平成30年 4月
売上高	(千円)	41,127,485	37,727,005	32,283,829	29,702,226	30,056,676
経常利益又は経常損失()	(千円)	278,221	393,023	271,482	110,952	<u>74,878</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失()	(千円)	61,143	394,287	368,097	243,233	<u>29,485</u>
包括利益	(千円)	58,914	387,052	389,133	242,769	<u>36,259</u>
純資産額	(千円)	3,726,463	3,278,464	2,857,897	2,589,908	<u>2,606,923</u>
総資産額	(千円)	14,531,489	14,775,931	14,475,747	14,355,069	<u>14,453,551</u>
1株当たり純資産額	(円)	1,182.92	1,045.66	911.45	825.95	<u>831.52</u>
1株当たり当期純利益又は 当期純損失()	(円)	19.22	125.84	117.51	77.65	<u>9.41</u>
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	(円)	19.10				<u>9.20</u>
自己資本比率	(%)	25.6	22.2	19.7	18.0	<u>18.0</u>
自己資本利益率	(%)	1.6	11.3	12.0	8.9	<u>1.1</u>
株価収益率	(倍)	21.2				<u>40.5</u>
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	330,537	1,305,157	1,916,023	1,509,540	1,702,195
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	942,829	1,448,046	928,925	1,431,577	2,199,693
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	283,804	314,697	630,952	394,999	169,596
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	1,188,108	1,359,916	1,716,061	1,399,026	1,071,124
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(名)	388 (120)	390 (127)	396 (133)	375 (135)	362 (122)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第64期、第65期及び第66期については、希薄化効果を有している潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第64期、第65期及び第66期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成26年 4月	平成27年 4月	平成28年 4月	平成29年 4月	平成30年 4月
売上高 (千円)	23,312,298	21,388,769	16,156,979	13,549,848	14,498,902
経常利益又は経常損失 () (千円)	83,165	144,730	134,026	35,240	<u>56,613</u>
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	142,871	167,741	205,218	157,130	<u>2,866</u>
資本金 (千円)	411,250	411,250	411,250	411,250	411,250
発行済株式総数 (千株)	3,230	3,230	3,230	3,230	3,230
純資産額 (千円)	2,998,509	2,777,056	2,519,369	2,337,482	<u>2,327,879</u>
総資産額 (千円)	10,665,998	10,233,809	9,626,919	9,901,064	<u>9,581,427</u>
1株当たり純資産額 (円)	950.93	885.60	803.38	745.36	<u>742.44</u>
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	17.00 ()	10.00 ()	8.00 ()	6.00 ()	8.00 ()
1株当たり当期純利益又は当期純損失 () (円)	44.91	53.54	65.51	50.16	<u>0.91</u>
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)					<u>0.89</u>
自己資本比率 (%)	28.1	27.1	26.2	23.6	<u>24.3</u>
自己資本利益率 (%)	4.7	5.8	7.8	6.5	<u>0.1</u>
株価収益率 (倍)					<u>416.4</u>
配当性向 (%)					<u>177.7</u>
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	217 (74)	220 (81)	216 (87)	225 (91)	214 (85)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第63期、第64期、第65期及び第66期については潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

3. 第63期、第64期、第65期及び第66期の株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2 【沿革】

当社は、個人経営として、初代社長太田毎二郎(故人)が神奈川県横浜市鶴見区市場町1768番地(現住所、横浜市鶴見区市場大和町4番2号)において、石油・油脂塗料の販売を開始し、事業内容の多角化と販売網の拡大、経営内容の充実を背景に、昭和26年5月に創業25周年を期して株式会社朝日商会として新たに発足いたしました。

年月	事項
昭和26年5月	石油・油脂塗料の販売を目的として、株式会社朝日商会を横浜市鶴見区に設立。
昭和32年8月	亜細亜石油株式会社(現JXTGエネルギー㈱)のモデルスタンドを本社敷地内に建設。 同社石油商品の販売及びサービスステーション事業へ本格的に進出。
昭和32年12月	亜細亜石油株式会社の準特約店となる。
昭和34年12月	三栄石油有限会社(昭和41年12月株式会社へ組織変更、平成4年5月当社が吸収合併)を設立。
昭和35年7月	新亜細亜石油株式会社と特約販売契約を締結し、特約店となる。
昭和41年10月	三栄石油有限会社が日本石油株式会社(現JXTGエネルギー㈱)と特約販売契約を締結。
昭和45年5月	株式会社朝日へ社名変更。
昭和51年12月	株式会社新横浜整備センター(昭和55年9月アンスオート整備株式会社に社名変更、平成4年5月当社が吸収合併)を設立し、自動車整備事業に進出。民間車検場業務も開始。
昭和57年8月	株式会社オートラマヨコハマ(平成4年5月当社が吸収合併、平成6年2月再度分社化、平成10年5月当社が吸収合併)を設立。株式会社オートラマ(現フォード・ジャパン・リミテッド)と特約契約を締結し、『フォード』ディーラーとして自動車販売業務へ進出。
昭和61年5月	株式会社サンロード(平成10年5月当社が吸収合併)を設立。オリックス・レンタカー株式会社(現オリックス自動車株式会社)とフランチャイズ契約を締結し、レンタカー業務に進出。フランチャイズブランド名は『バジェットレンタカー』。
平成元年1月	有限会社エース・ビルメンテナンス(平成3年3月株式会社に組織変更)を設立。(設立時の出資比率40%)
平成3年4月	株式会社サンロードのフランチャイズブランド名が『オリックスレンタカー』に変更となる。
平成4年5月	三栄石油株式会社、株式会社オートラマヨコハマおよびアンスオート整備株式会社を吸収合併。社名を株式会社サンオータスへ変更。
平成4年7月	独自ブランド『Dr.ラビット』にてカー用品の小売販売事業に進出。
平成4年10月	本社を横浜市港北区新横浜二丁目4番15号へ移転。
平成6年2月	自動車販売のオートラマ事業部を子会社として再度分社化。株式会社オートラマヨコハマを設立。
平成6年5月	株式会社オートラマヨコハマを株式会社フォード横浜に社名変更。
平成7年6月	株式会社ローヤル(現㈱イエローハット)とフランチャイズ契約を締結し、カー用品販売事業の『Dr.ラビット』を『イエローハット』に変更。
平成9年2月	株式会社エース・ビルメンテナンスを100%出資子会社化。(現・連結子会社)
平成9年5月	株式会社サンロードの社名を株式会社オリックスレンタカー横浜に変更。
平成10年5月	株式会社フォード横浜および株式会社オリックスレンタカー横浜を吸収合併。
平成11年3月	株式会社ガリバーインターナショナルのフランチャイズとして車買取専門店『ガリバー』の運営を開始。
平成11年12月	日本証券業協会に株式を店頭登録。

年月	事項
平成12年 5月	輸入中古車販売センター『ナビックス新横浜』を運営開始。
平成12年11月	カー用品販売のカー用品部門(イエローハット)を子会社として分社化。株式会社サンイエローを設立。(出資比率90%)
平成13年 4月	株式会社サンイエローが増資により子会社から関連会社へ。(出資比率49.09%)
平成13年12月	株式会社ブリティッシュオート(100%出資子会社)設立。
平成14年 9月	株式会社サンメディア(100%出資子会社)設立。
平成14年12月	株式会社モトーレン東洋(100%出資子会社)を買収。(現・連結子会社)
平成15年 1月	輸入中古車販売センター『ナビックス新横浜』を閉店。
平成15年 7月	株式会社ガリバーインターナショナルのフランチャイズ契約満了により、『ガリバー港南店』、『ガリバー厚木店』を閉店。
平成16年 4月	当社100%出資子会社である株式会社ブリティッシュオートの資本金を10百万円から30百万円に増資。
平成16年 4月	関連会社である株式会社サンイエローの全株式を共同出資会社である株式会社イエローハットに売却。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年 6月	当社100%出資子会社である株式会社モトーレン東洋の資本金を25百万円から50百万円に増資。(現・連結子会社)
平成18年 7月	当社100%出資子会社である株式会社モトーレン東洋の資本金を50百万円から90百万円に増資。
平成19年 4月	メトロポリタンモーターズ株式会社(100%出資子会社)を買収。(現・連結子会社)
平成19年 5月	双葉石油株式会社(100%出資子会社)を買収。(現・非連結子会社)
平成19年 9月	BMW車正規ディーラーである株式会社モトーレン東洋とメトロポリタンモーターズ株式会社の店舗の称号を『Shonan BMW』に統一。
平成19年 9月	当社独自のブランドである『環境車検』が「第9回グリーン購入大賞 優秀賞」を受賞。
平成20年 5月	オリックス自動車株式会社より『ジャバレンレンタカー』を運営する2店舗を営業譲受。
平成20年 7月	BMW車正規ディーラーである子会社メトロポリタンモーターズ株式会社において、株式会社モトーレン東名横浜の港南支店を営業譲受。
平成20年12月	フォード横浜湘南台店を閉鎖。
平成21年 9月	当社100%出資子会社である株式会社ブリティッシュオートを吸収合併し、ジャガー営業部を新設。
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所との合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
平成22年 7月	第一石油部(旧JOMO系)と第二石油部(ENEOS系)を統合し、ライフエネルギー部を新設。
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成23年 8月	プジョー・シトロエン・ジャポン株式会社とプジョー特約販売店契約を締結、プジョー営業部を新設しプジョー車正規ディーラーとしての業務を開始。
平成23年12月	連結子会社の株式会社モトーレン東洋が、神奈川県平塚市所在の平塚競技場のネーミングライツを取得し、「Shonan BMWスタジアム平塚」と命名。
平成24年 3月	連結子会社の株式会社モトーレン東洋が、株式会社湘南ベルマーレとオフィシャルクラブパートナー契約を締結。
平成24年 3月	連結子会社の株式会社エースビルメンテナンスが、ISO14001を取得。

年月	事項
平成24年 4月	ジャガー港南店を閉鎖。
平成24年 9月	ほけんの窓口グループ株式会社とフランチャイズ契約を締結、保険業務課から保険推進室へと組織変更を行い、来店型保険ショップとしての業務を開始。
平成24年11月	ジャガー東名横浜店を閉鎖。
平成25年 1月	来店型保険ショップ『ほけんの窓口横浜鶴見店』、『ほけんの窓口金沢八景店』を出店。
平成25年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所との現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成25年 9月	来店型保険ショップ『ほけんの窓口二俣川店』を出店。
平成26年 8月	来店型保険ショップ『ほけんの窓口大和店』を出店。
平成28年 9月	フォードの日本撤退に伴い、フォード港南台店を閉鎖。
平成28年12月	当社としては東京都への初出店となるブジョー成城店をオープン。
平成29年 3月	FCAジャパン株式会社との販売店契約を締結し、ジープ車正規ディーラーとしてジープ横浜港南店を出店。
平成29年10月	株式会社サンメディアを清算。

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、サンオータス(当社)、連結子会社3社、非連結子会社1社で構成されております。

当社グループが行っている事業は、エネルギー事業、カービジネス事業、ライフサポート事業、不動産関連事業及びその他の事業に区分されております。

エネルギー事業におけるライフエネルギー部では、ガソリン、軽油、灯油、重油及び潤滑油等の石油関連商品の小売及び卸売を行っております。また、環境車検部では自動車整備事業を行っております。

カービジネス事業においては、プジョー営業部でプジョーブランドの新車・中古車の販売及び整備・点検等の各種サービスの販売を、ジープ営業部でジープブランドの新車・中古車の販売及び整備・点検等の各種サービスの販売を、レンタ・リース部では、オリックス自動車株式会社の代理店業務を中心としたレンタカー業務を行っております。また、連結子会社でBMWブランドの新車・中古車の販売及び整備・点検等の各種サービスの販売を行っております。

ライフサポート事業においては、保険推進室でほけんの窓口グループ株式会社の代理店業務を中心とした生命保険・自動車保険・損害保険の募集業務を行っております。

不動産関連事業は不動産賃貸業、連結子会社でビルメンテナンス業務を行っております。

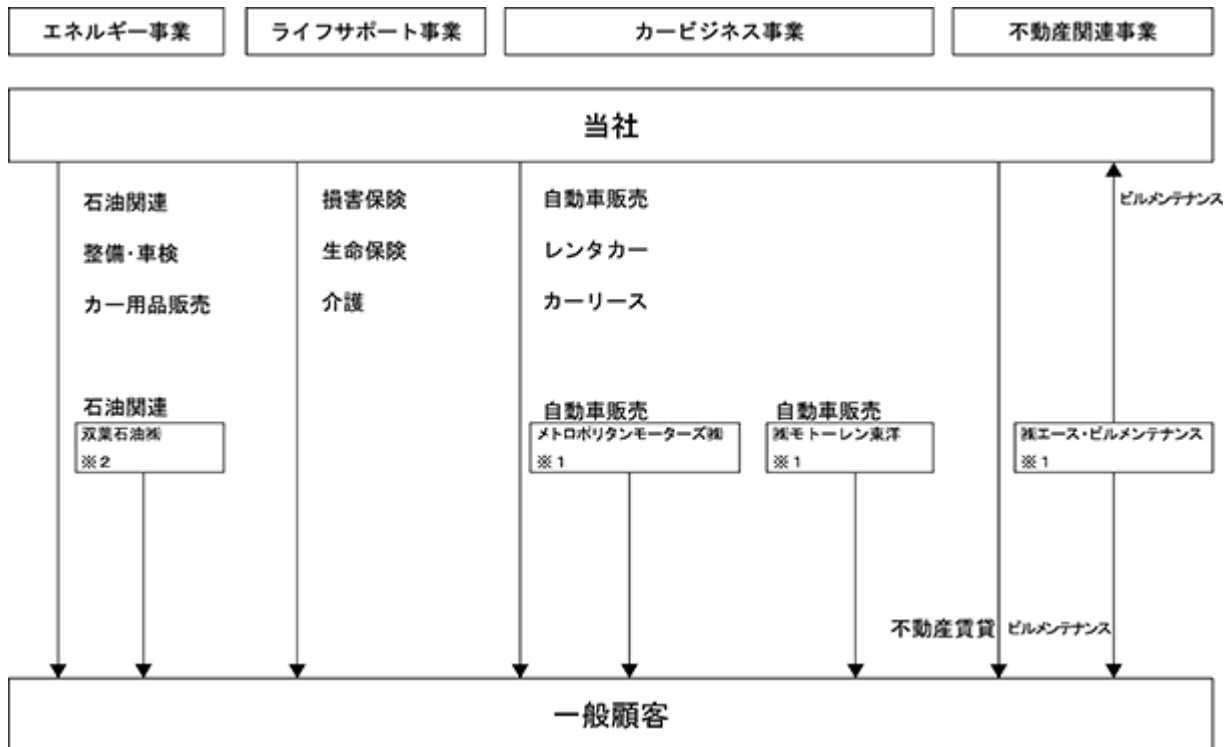
その他の事業は非連結子会社で、人材派遣業を行っていましたが、前期より休止中のところ、平成29年10月25日付で清算いたしました。

当社グループの事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

事業の種類	主たる業務	会社名	
エネルギー事業	ガソリン、軽油、灯油、重油、潤滑油等の石油関連商品の販売 自動車整備(車検・各種整備)カー用品、タイヤ、オーディオ、バッテリーの小売	当社	
	ENEOS製品のガソリン、軽油、灯油、潤滑油等の石油関連商品の販売	非連結子会社	双葉石油(株)
カービジネス事業	フォード車、プジョー車及びジープの新車・中古車販売整備・点検のサービス、レンタカー、カーリース	当社	
	BMW車の販売 整備・点検のサービス	連結子会社	(株)モトーレン東洋 メトロポリタンモーターズ(株)
ライフサポート事業	生命保険募集及び損害保険代理店 居宅介護支援及び訪問介護	当社	
不動産関連事業	不動産賃貸業	当社	
	ビルメンテナンス業務	連結子会社	(株)エース・ビルメンテナンス
その他の事業	人材派遣業	非連結子会社	(株)サンメディア

(株)サンメディアは平成29年10月25日付で清算いたしました。

以上について事業系統図として図示すると次のとおりです。



- 1 連結子会社であります。
- 2 非連結子会社であります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
㈱モトーレン東洋 (注) 2、3	横浜市港北区	90,000	カービジネス事業	100	債務保証あり。 役員の兼任あり。
㈱エース・ビルメンテナンス	横浜市鶴見区	30,000	不動産関連事業	100	当社所有物件及び営業所のメ ンテナンスをしている。 役員の兼任あり。
メトロポリタンモーターズ㈱ (注) 2、3	横浜市港北区	90,000	カービジネス事業	100	資金援助及び債務保証あり。 役員の兼任あり。

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2. 株式会社モトーレン東洋及びメトロポリタンモーターズ株式会社については、売上高（連結会社相互間の内
部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合がそれぞれ10%を超えております。

主要な損益情報等

株式会社モトーレン東洋

(1) 売上高	6,047,401千円
(2) 経常損失()	60,643千円
(3) 当期純損失()	59,608千円
(4) 純資産額	184,624千円
(5) 総資産額	2,354,758千円

メトロポリタンモーターズ株式会社

(1) 売上高	9,713,418千円
(2) 経常利益	70,157千円
(3) 当期純利益	24,112千円
(4) 純資産額	203,469千円
(5) 総資産額	3,045,575千円

3. 特定子会社に該当していません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年4月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
エネルギー事業	72 (52)
カービジネス事業	228 (42)
ライフサポート事業	21 (2)
不動産関連事業	9 (24)
全社(共通)	32 (2)
合計	362 (122)

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループへの出向者を含む就業人員であります。
2. 臨時従業員数は()内に当連結会計年度の平均人員を外数で記載しております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分ができない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年4月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
214 (85)	38.4	10.4	4,531

セグメントの名称	従業員数(名)
エネルギー事業	72 (52)
カービジネス事業	93 (30)
ライフサポート事業	20 (2)
全社(共通)	29 (1)
合計	214 (85)

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2. 臨時従業員数は、当事業年度の平均人員を()外数で記載しております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分ができない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

サンオータスグループ(以下、「当社グループ」という。)の経営理念は“ For all our Customers ”であり、「私たちの商品、サービスを通じて当社グループをご利用いただくすべてのお客さまの幸せのためにできる限りのことを行う」という意味を込めています。

当社グループの営業基盤は、神奈川県という国内屈指の産業集積度の高いマーケットであり、設立以来60年超に亘り「トータルカーサービス」を提供してまいりました。

また、地域社会に貢献すべく、CO2排出制限を柱とする「地球にやさしい環境」を目指す企業活動を積極的に行い、人と車、人と環境、人と未来へとつながる事業活動により、お客さま、株主様、従業員の幸せを目指してまいります。

(2) 中長期的な会社の経営戦略

平成28年5月から3ヶ年の新中期経営計画をスタートしております。

スローガンは、「経営資源の最大活用」であり、「ヒト・モノ・カネ・情報」の経営資源を聖域なく最大限に有効活用し、環境変化への対応力を高め、安定した利益体質を実現させていくものです。

具体的には、以下の4つのキーワードをもって実現に向けて邁進していきます。

1. Mobility 進化する移動手段とサービスの提供
2. Energy 新エネルギー(太陽光・電気・水素エネルギー等)への積極的な取り組み
3. Asset 神奈川県内60拠点のネットワークと不動産資産の有効活用
4. Diversity 顧客ニーズの多様化・人財活用の多様化への積極的な対応

(3) 会社の対処すべき課題

当社グループは恵まれたマーケットである神奈川県を基盤とした経営を行っておりますが、首都圏においても近年、少子高齢化によるマーケットの縮小、若者の嗜好の変化に伴う自動車離れ、自動車関連業界における人材確保の困難、今後の消費税率アップによる需要の減少、低燃費車の普及による国内石油製品の構造的な需要減少など、外部環境は楽観視できない状態が続いております。

このような厳しい環境の下、不採算店舗の統廃合、営業時間の見直し、効率的な人員配置等により効率的な経営を目指してまいります。

また、カービジネス事業での新たな来場型店舗への転換や次世代都市型のスマートシティTsunashima SSTでのカーシェアリング、サイクルシェアリングなど先進性のあるサービスの提供を通じ新たなビジネスの展開を図り、ステークホルダーの皆様から信頼され、期待される企業ブランド構築の実現を目指してまいります。

管理部門においても、社有不動産の有効活用、業務の合理化・効率化を通して収益体質の改善強化を図ってまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、本報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

当社の事業等のリスクは以下のとおりです。

事業環境による影響

当社グループの事業は、主として自動車を中心とする燃料油の販売、輸入車の販売、自動車部品の販売と整備、輸入車を含めたレンタ・リース、各種損害保険取扱い、生命保険募集、不動産賃貸、ビルメンテナンス事業など多岐にわたっております。

当社グループは国内又は世界的にもトップクラスの品質とブランド力を有するメーカー各社から製品の供給を受け、神奈川県という恵まれた地域で営業展開をしております。

各事業の特徴は、トップクラスメーカーの開発した製品が市場においては価格面でも、激しい販売競争にさらされているという現実です。製品の優位性に加えて地域の経済力や販売会社の販売・営業力の優劣が各製品の市場シェアを左右しているといえます。

当社グループの事業リスクは短期的には、供給面で商品優位性の確保と需要面での地域経済、ひいては顧客の購買力という需給の両面で存在いたします。

自然災害、事故等による影響

当社グループは、主に一般消費者を対象とした各店舗における販売が中心であり、首都圏で大規模な地震などの自然災害や事故等が発生することは、当社グループの営業基盤である神奈川県経済はもとより、当社グループの営業成績にも関わる事業リスクであるといえます。

原油価格による影響

原油価格の急激な変化は、当社グループの石油製品販売事業へ影響があります。新興国の成長に伴い世界の石油需要が拡大する反面、OPEC生産余力の改善の遅れに加えて、地政学上のリスクが増加したため供給面での不安定要因と投機資金の石油先物市場への流出等により、原油価格の動向は不透明な状況にあります。

ただし、燃料油販売価格の変動の影響は、消費動向の変化も生じてくることも予想される一方で、燃費アップの効果がある環境車種の取り扱いの増加や、新エネルギーへの取り組みなど、当社グループにとっては新しいビジネスモデルが生まれる機会ともいえます。

為替レートによる影響

当社グループの主要商品は輸入自動車及び石油製品であり、当社グループは輸入自動車の国内総代理店や国内石油元売り会社から商品・製品の供給を受けており、為替レートの変動が供給元において価格を決定する際の一つの要因となり、仕入価格に係るリスクであるといえます。

エネルギービジネスの多様化による影響

コンビニエンス・ストア、ホームセンター、ショッピング・モール等の異業種が、新たに電気及びガソリン等の供給を始め、参入は増加傾向にあります。また、地球温暖化に対する排出ガス規制を受けて、ハイブリット型低燃費車両に加え電気、水素ガスを動力源とした自動車の販売台数も徐々に増加してきております。このような新規参入業種や燃料転換の中で環境に対応した付加価値を持った事業展開が今後の重要なポイントとなっていきます。

国内の自動車需要の変化による影響

輸入車の販売を含めた自動車の国内販売台数は、多くの新型車の投入にもかかわらず伸び悩んでいます。このことは、ストックとしての国内での保有台数が限界に近づいていることも示しています。神奈川県の高齢化比率は全国平均よりかなり低いことが、自動車販売においては比較的優位性を確保していますが、少子高齢化の進展と高齢者の市街地への回帰志向の高まりとともに、若年層を中心とした自家用車を保有しない世帯の増加や、消費者の嗜好の多様

化に伴い、自動車関連への需要が減少に向かっている傾向もあります。一方、自動車へのニーズの多様化はカーシェアリングや当社が進めているマンションレンタカーへの取り組み等新しいビジネスのチャンスともいえます。

重要な事象等について

当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失を計上しておりましたが、当連結会計年度におきまして、営業利益134百万円、経常利益74百万円、親会社株主に帰属する当期純利益29百万円を計上しております。一方、連結ベースでは黒字を計上したものの、グループ各社の業績の回復は道半ばであり、現状では収益基盤が安定したとまでは言えません。このような状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。しかしながら、いずれの連結会計年度においても営業キャッシュ・フローはプラスであり、主要取引銀行の支援体制も十分確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

当該重要事象等を解消し、経営基盤の安定化への対応策は、「3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」(5) 重要事象等及び当該事象を解消し又は改善するための対応策に記載のとおりであります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概況

当連結会計年における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は以下のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府・日本銀行の各種政策を背景に企業収益の回復や雇用情勢の改善等により景気は緩やかな改善基調で推移いたしました。

一方、世界経済では、米国政権の経済政策が国際的な貿易摩擦問題へ発展する懸念、北朝鮮・中国を始めとするアジア諸国の地政学的リスク及び経済動向、EU諸国の不安定な状況等、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況の下、当社グループ事業の環境におきまして、石油製品販売業界は、原油価格が緩やかに上昇し65ドル前後（NY原油）で高止まりしていることを受けて、ガソリン価格は140～150円台まで上昇しております。低燃費車・電気自動車の普及、若者の車離れ等による国内石油製品の構造的な需要の減少は変わらず、取り巻く経営環境は厳しさが続いております。また、輸入車販売業界におきましては、2017年度の輸入車国内販売台数が20年ぶりに30万台（前年度比1.7%増）を超えました。引き続き輸入車ブランド間による顧客獲得競争は激化しておりますが、中古車・整備部門の強化を図り、収益確保に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は30,056百万円（前連結会計年度比354百万円増収、1.2%増）、営業利益134百万円（前連結会計年度は156百万円の営業損失）、経常利益74百万円（前連結会計年度は110百万円の経常損失）を計上し、法人税等負担後の親会社株主に帰属する当期純利益は29百万円（前連結会計年度は243百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。なお、セグメント間の取引については、相殺消去前の数値によって表示しております。

《エネルギー事業》（石油製品販売、カーケア商品販売、車検・整備）

石油製品の販売数量が伸び悩む中、当社グループのガソリンスタンドにおいて、収益の改善施策として、運営時間の見直し、運営形態の見直し、人員の再配置と油外製品での売上拡大に取り組んでまいりました。具体的には24時間営業を行っている2店舗を午後10時までの営業に切り替え経費を削減、また、人員の適正配置による人件費の縮減に取り組んでまいりました。さらには適正な燃料油口銭（マージン）の確保及び洗車・タイヤ・オイル・バッテリー等の油外商品の拡販に努めてまいりました。

既存店舗における売上高は、ガソリン等の燃料油の価格上昇により増加しましたが、大口需要家向け直接販売部門については採算性を優先した結果、全体としての売上高は前連結会計年度を下回りました。一方、損益面は適正価格の販売により口銭を確保できたこと、コーティング洗車、メンテナンス商材の拡販により、前期に比べ大幅に収益の改善を図ることができました。

車検・整備部門は、低価格戦略を打ち出した競業他社との受注競争が引き続き厳しい状況に置かれており、昨年度大和テクニカルセンターを新横浜店に統合し、効率化・合理化を進め、コスト削減を図ってきました。営業部門は展示会等を開催することでエンジン洗浄機器の拡販に努め、収益を確保することができました。事業全体としては前連結会計年度に比べ改善を図ることができました。

これらの結果、エネルギー事業の当連結会計年度の売上高は9,358百万円（前連結会計年度比310百万円減収）、セグメント利益は105百万円（前連結会計年度はセグメント損失13百万円）となりました。

《カービジネス事業》（BMW、プジョー、ジープの輸入車正規ディーラー、オリックス・レンタカー）

BMW販売部門につきましては、ショッピングモールへの出張展示会を積極的に開催するなど既存のユーザーの買い替え促進に加え、新規ユーザーの獲得に注力いたしました。また、既存の広告媒体に加え、WEB上での媒体を活用した広告を新たに取り入れ拡販を図りました。売上面では販売台数は横ばいで推移しましたが、1台当たりの単価が上がっていることもあり、販売額は増加いたしました。損益面において他社とのブランド競争激化の中で厳しい状況に置かれました。

プジョー販売部門につきましては、平成28年12月に都内初出店した成城店が当連結会計年度は販売において1年間寄与したこと、ゼロ金利キャンペーンの効果もあり、新車販売・中古車販売ともに順調に推移し、収益面でも前

連結会計年度に比べ大幅に伸ばいたしました。

また、平成29年3月には、平成28年度に日本から撤退したフォード車と同じ米国車のブランドであるジープ車販売に新規参入し、こちらも当連結会計年度において1年間販売に寄与することで売上高、収益面ともに順調に推移いたしました。

レンタカー部門につきましては、価格競争と顧客獲得競争が激化する中、新車・人気車の車輛入替を行いながら、法人顧客の新規開拓や事故代車需要の掘り起こし、既存ユーザーの囲い込みに注力いたしました。であるジープ車販売に新規参入いたしました。

レンタカー部門につきましては、価格競争と顧客獲得競争が激化する中、新車・人気車の車輛入替を行いながら、法人顧客の新規開拓や既存ユーザーの囲い込みに注力いたしました。

これらの結果、カービジネス事業の当連結会計年度の売上高は、20,239百万円（前連結会計年度比684百万円増収）、セグメント利益は120百万円（前連結会計年度はセグメント損失73百万円）となりました。

《ライフサポート事業》（損害保険・生命保険募集業務、訪問介護サービス）

保険部門につきましては、来店型保険ショップ『ほけんの窓口』を4店舗展開し、コンサルティング業務の質の向上に重点を置き、成約率の向上に努めました。来店客数を増加させるべく集客力アップに取り組みましたが、他店との競争激化の中で来店客数は伸び悩みました。一方、マンション管理組合向け保険契約に注力し新たな収益源とすべく営業活動を行った結果、成約に至り収益に寄与しました。

これらの結果、ライフサポート事業の当連結会計年度の売上高は170百万円（前連結会計年度比18百万円減収）、セグメント損失は7百万円（前連結会計年度のセグメント損失は46百万円）となりました。

《不動産関連事業》（ビルメンテナンス業、不動産賃貸業）

不動産関連部門につきましては、閉鎖したSS跡地の有効活用、賃貸マンションのリフォームによる入居率および定着率のアップ等を図り収益増加に注力いたしました。総合ビルメンテナンス部門につきましては、人件費の高騰等経費が増大する中で安定した顧客の確保を目指すとともにビルメンテナンスの営業強化を図り、空調機フィルター清掃の新規受注を獲得するなど、引き続き堅調に推移いたしました。

これらの結果、不動産関連事業の当連結会計年度の売上高は457百万円（前連結会計年度比8百万円増収）、セグメント利益は146百万円（前連結会計年度比32百万円増益）となりました。

当連結会計年度の財政状態は、以下のとおりであります。

(イ) 資産

当期連結会計年度末の総資産は14,453百万円となり、前連結会計年度末に比べ98百万円増加となりました。これは主に、現金及び預金が273百万円、土地が257百万円、商品が113百万円、建物及び構築物が73百万円減少したものの、機械装置及び運搬具が651百万円、建設仮勘定が141百万円、リース資産が73百万円増加したこと等によるものであります。

(ロ) 負債

負債合計は11,846百万円となり、前連結会計年度末に比べ81百万円増加となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が475百万円、長期借入金が255百万円、1年内返済予定の長期借入金71百万円、流動負債のその他が47百万円減少したものの、短期借入金840百万円、リース債務が50百万円増加したこと等によるものであります。

(ハ) 純資産

純資産は親会社株主に帰属する当期純利益を29百万円計上したこと等により、前連結会計年度末に比べ17百万円増加して、2,606百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度より327百万円減少して1,071百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(イ) 営業活動におけるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動の結果獲得した資金は前連結会計年度より192百万円増加して1,702百万円となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益17百万円、減価償却費を693百万円計上したこと、仕入債務が485百万円、たな卸資産が1,479百万円減少したこと等によるものであります。

(ロ) 投資活動におけるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は前連結会計年度より768百万円増加し、2,199百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の売却による収入270百万円、長期貸付金の回収による収入76百万円があったものの、試乗用車両等を中心とした車両の入替による有形固定資産の取得による支出が2,574百万円あったこと等の結果によるものであります。

(ハ) 財務活動におけるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において財務活動の結果獲得した資金は169百万円となりました。（前連結会計年度は財務活動の結果使用した資金394百万円）

これは主に、短期借入金の純増加額が840百万円があった反面、長期借入金の返済による支出が326百万円、リース債務の返済による支出が325百万円あったこと等によるものであります。

仕入及び販売の状況

a. 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)
1 エネルギー事業			
石油製品	7,933,961	32.7	2.9
車検・整備	81,866	0.3	18.1
その他商品			
小計	8,015,828	33.0	3.1
2 カービジネス事業			
新車	9,524,462	39.2	+6.5
中古車・整備	6,299,103	25.9	8.1
レンタカー	346,135	1.4	12.0
小計	16,169,701	66.6	0.1
3 ライフサポート事業			
介護			
保険			
小計			
4 不動産関連事業			
不動産関連	108,325	0.4	9.8
小計	108,325	0.4	9.8
合計	24,293,854	100.0	1.2

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去前の数値によっております。

2. その他商品には、油外商品仕入が含まれております。

3. 中古車・整備には、中古車仕入、サービス仕入が含まれております。

4. 不動産関連には、ビルメンテナンス関係、不動産賃借料等が含まれております。

5. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)
1 エネルギー事業			
石油製品	9,202,373	30.4	3.9
車検・整備	135,136	0.4	+43.4
その他商品	21,138	0.1	
小計	9,358,648	31.0	3.2
2 カービジネス事業			
新車	11,122,115	36.8	+3.4
中古車・整備	8,228,268	27.2	+4.3
レンタカー	888,675	2.9	1.7
小計	20,239,059	67.0	+3.5
3 ライフサポート事業			
介護			
保険	170,324	0.5	+3.9
小計	170,324	0.5	9.7
4 不動産関連事業			
不動産関連	457,708	1.5	+1.8
小計	457,708	1.5	+1.8
合計	30,225,740	100.0	+1.2

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去前の数値によっております。
2. その他商品には、油外商品売上(潤滑油、カー用品、作業料)が含まれております。
3. 中古車・整備には、中古車売上とサービス売上が含まれております。
4. 不動産関連には、ビルメンテナンス収入、不動産賃貸収入が含まれております。
5. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下のとおりであります。

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成されております。連結財務諸表の作成にあたって、会計上の見積りを行う必要があり、貸倒引当金、賞与引当金等の各引当金の計上、繰延税金資産の回収可能性の判断等につきましては、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っております。ただし、見積り特有の不確実性が存在するため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

なお、連結財務諸表の作成のための重要な会計基準等は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 流動資産

当連結会計年度末における流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ408百万円減少し6,029百万円（前連結会計年度比6.3%減少）となりました。これは主にその他流動資産が20百万円、繰延税金資産が28百万円増加した一方、現金及び預金が273百万円、商品が113百万円減少したこと等によるものです。

b. 固定資産

当連結会計年度末における固定資産の残高は、前連結会計年度末に比べ506百万円増加し8,424百万円（前連結会計年度比6.4%増加）となりました。これは主に土地が257百万円、建物及び構築物が73百万円、差入保証金が40百万円減少したものの、機械装置及び運搬具が651百万円、建設仮勘定が141百万円、リース資産が73百万円増加したこと等によるものであります。

c. 流動負債

当連結会計年度末における流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ279百万円増加し10,710百万円（前連結会計年度比2.7%増加）となりました。これは主に支払手形および買掛金が475百万円、1年内返済予定の長期借入金が71百万円減少しましたが、短期借入金が840百万円増加したこと等によるものであります。

d. 固定負債

当連結会計年度末における固定負債の残高は、前連結会計年度末に比べ197百万円減少し1,136百万円（前連結会計年度比14.8%減少）となりました。これは主に、リース債務が50百万円増加したものの、長期借入金が255百万円減少したこと等によるものであります。

e. 純資産

当連結会計年度末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ17百万円増加し2,606百万円（前連結会計年度比0.7%増加）となりました。これは親会社株主に帰属する当期純利益として29百万円を計上し、剰余金の配当として18百万円を支出したこと等によるものであります。

経営成績に重要な影響を与える要因

当連結会計年度における経営成績の状況の分析につきましては、本項目の「(1) 経営成績等の状況の概況」に記載しております。

当社グループは石油商品の販売及びカーディーラーにおける輸入車の販売を事業の中核としており、原油価格及び為替の動向、輸入車の販売動向が当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因であります。

原油価格は、産油国の生産量、国内外の需要動向やシェールオイルの生産動向等により変動します。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

a. 資金需要

当社グループは、輸入車の仕入及び石油製品の仕入等の運転資金、カーディーラー用の店舗等の設備投資、借入金の返済及び配当等の資金需要があります。具体的には翌連結会計年度の計画として、連結子会社である(株)モトーレン東洋において、厚木支店（投資予定額438百万円）を新設、さらに(株)サンオータスにおいて連結子会社であるメトロポリタンモーターズ(株)の港南支店（投資予定額500百万円）への賃貸を目的とした店舗を建設する予定であります。

b. 資金の源泉

主として営業活動、金融機関からの借入により、必要とする資金を調達しております。資金需要に記載の翌連結会計年度の投資計画については、大半を金融機関からの借入によって賄う予定であります。

c. キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概況 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

重要事象等及び当該事象を解消し又は改善するための対応策

「2 事業等のリスク 重要な事象等について」に記載のとおり、当社グループは、前連結会計年度まで3期連続して営業損失を計上していましたが、当連結会計年度におきまして、営業利益134百万円、経常利益74百万円、親会社株主に帰属する当期純利益29百万円を計上しております。一方、連結ベースでは黒字を計上したものの、グループ各社の業績の回復は道半ばであり、現状では収益基盤が安定したとまでは言えません。このような状況により、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。

しかしながら、当社グループではいずれの連結会計年度においても営業キャッシュ・フローはプラスであり、主要取引銀行の支援体制も十分確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

当該事象又は状況を解消するための対応策として、当社グループは引き続き以下のような収支改善施策に取り組んでおります。

(イ) 不採算店舗の統廃合及び運営時間・運営形態の見直し

翌連結会計年度において、以下の施策を行ってまいります。

- ・エネルギー事業では、当連結会計年度において人員の再配置と洗車設備の改修を進めることで油外収益の改善を図ってまいりました。また、夜間採算性の悪い店舗の24時間営業の取りやめや、低収益店舗のポンプステーション化等、店舗運営の合理化を実施いたしました。引き続き同様の施策を実施することで収益の改善を図ってまいります。

- ・カービジネス事業のレンタカーでは、当連結会計年度において実施する予定であった不採算店舗について、近隣店舗との統合を翌連結会計年度に実施することで、店舗運営費の合理化による利益の改善を図ってまいります。また、保有車両のライフサイクルの見直しと必要車両をタイムリーに投入することで車両稼働率の改善と車両保有台数の適正化を図ってまいります。

(ロ) 販売方法・販売報奨金制度の見直し、経費の削減

サンオータスグループの中で業績の回復が遅れているBMW販売ディーラーについて、以下の施策により収益の回復に努めてまいります。

- ・新車販売について、値引きや車両下取り価格についての社内規程の見直しと運用の徹底により売上総利益率の改善を図ってまいります。

- ・販売費の徹底した削減、インセンティブ制度の見直しによる人件費の圧縮、本部機能の集約化・合理化等により経費の大幅削減を図ってまいります。

(ハ) 内部統制の強化

当社子会社におけるコンプライアンス違反取引に関する第三者委員会調査による再発防止策の提言にもとづき、子会社独自のガバナンスの強化、コンプライアンス意識の周知徹底、内部監査室の新設による内部統制フローの再構築及びモニタリングチェック体制の強化、社外通報受付窓口の増設による内部通報制度の強化等の施策を実施することにより、より実効性を高めた内部統制の強化を図ってまいります。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 特約契約

イ 当社は、J X T Gエネルギー株式会社と下記内容の特約販売契約を締結しております。

なお、同社（平成29年4月1日商号変更、旧称号J X エネルギー株式会社、平成28年1月1日商号変更、旧称号J X 日鉱日石エネルギー株式会社、平成22年7月1日商号変更、旧商号・新日本石油株式会社）との契約は昭和41年10月に、新日本石油株式会社の前身会社である日本石油株式会社と三栄石油有限公司（昭和41年12月株式会社へ組織変更、平成4年5月当社が吸収合併）との間で第1回の締結をいたしており、以後数回の改定を経て、平成13年7月に最新の改定をしております。

契約内容 J X T Gエネルギー株式会社東京支店管轄の販売区域における同社の石油販売と同社が有する登録商標、登録意匠、サービスマーク等の使用及び指定標識を貸与することを目的とした特約販売契約。

契約期間 契約締結の日から1年間。ただし、期間満了3ヶ月前までに別段の意思表示がないときは、さらに1年間有効とする。

ロ 子会社である株式会社モトーレン東洋は、ビー・エム・ダブリュー株式会社と下記の内容のBMW正規ディーラー契約を締結しております。

なお、同社との契約は平成15年1月1日に締結しております。

契約内容 「BMW製品」の販売権及びビー・エム・ダブリュー株式会社の使用する商標、販売地域、広告等の使用を目的とした、正規ディーラー契約。

契約期間 契約締結の日から2年間。ただし、期間満了の3ヶ月前の書面による事前通知がない場合は、さらに2年ごとに自動更新されるものとする。

ハ 子会社であるメトロポリタンモーターズ株式会社は、ビー・エム・ダブリュー株式会社と下記の内容のBMW正規ディーラー契約を締結しております。

なお、同社との契約は昭和63年10月13日に締結しております。

契約内容 「BMW製品」の販売権及びビー・エム・ダブリュー株式会社の使用する商標、販売地域、広告等の使用を目的とした、正規ディーラー契約。

契約期間 契約締結の日から2年間。ただし、期間満了の3ヶ月前の書面による事前通知がない場合は、さらに2年ごとに自動更新されるものとする。

ニ 当社は、プジョー・シトロエン・ジャポン株式会社と下記内容の特約販売店契約を締結しております。

なお、同社との契約は平成23年8月1日に締結しております。

契約内容 「プジョー商品」の販売権及びプジョー・シトロエン・ジャポン株式会社の使用する商標、広告等の使用を目的とした、特約販売契約。

契約期間 契約締結の日から1年間。ただし、期間満了の3ヶ月前の書面による事前通知がない場合は、さらに1年ごとに自動更新されるものとする。

ホ 当社は、F C Aジャパン株式会社と下記内容の販売店契約を締結しております。

なお、同社との契約は平成28年11月17日に締結しております。

契約内容 「ジープ商品」の販売権及びF C Aグループの使用する商標、広告等の使用を目的とした、販売契約。

契約期間 契約締結の日から平成28年12月31日まで。ただし、期間満了の3ヶ月前の書面による事前通知がない場合は、さらに1年ごとに自動更新されるものとする。

(2) フランチャイズ契約

イ 当社は、オリックス・レンタカー株式会社（現 オリックス自動車株式会社）と、下記内容のフランチャイズ契約を締結しております。

なお、同社との契約は、平成2年3月12日に株式会社サンロード(平成9年5月株式会社オリックス・レンタカー横浜に社名変更、平成10年5月当社が吸収合併)との間で締結されたものを承継しておりましたが、平成16年1月28日及び平成20年7月3日に新たにオリックス自動車株式会社との間でビジネスパートナー基本契約書を締結し現在に至っております。

契約内容 オリックス・レンタカーの統一的、同一イメージのもとに、オリックス・レンタカーの商標、サービスマークを使ったレンタカー事業を行うことを目的としたフランチャイズ契約。

契約期間 契約締結の日から1年間。ただし、期間満了の1ヶ月前までに書面により終了の通知がない限り、さらに1年ごとに自動的に更新されるものとする。

ロ 当社は、ほけんの窓口グループ株式会社と、下記内容のフランチャイズ契約を締結しております。

なお、同社との契約は平成24年9月19日に締結しております。

契約内容 保険ショップの経営及び保険商品の販売に関するノウハウ、商標、及びその他の知的財産等を利用して事業を行うことを目的としたフランチャイズ契約。

契約期間 契約締結の日から3年間。ただし、契約満了の6ヶ月前までに書面による更新拒絶の旨の申し入れがないときは、更に1年間更新されるものとし、以後も同様とする。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における主なものは、カービジネス事業における試乗車両の購入及びレンタル車両の調達、輸入車ディーラー事業用店舗用地の購入及び店舗取得・改装費用等、総額2,574百万円の設備投資を実施いたしました。

当連結会計年度における重要な設備の除却、売却等については、不動産関連事業において小田原（国府津）に保有していた土地を平成29年6月1日に270百万円で売却しております。

このほか、生産能力に重要な影響を及ぼす設備の異動はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年4月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース 資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	従業員 数 (人)
本社 (横浜市港北区)	全社	統轄業務 設備	197,563	3,212	429,710 (61.78)		15,829	646,314	26 ()
ガソリンスタンド 計22ヶ所	エネルギー事業	店舗設備	147,978	11,502	1,331,949 (5,795.79)	51,341	1,566	1,544,339	62 (50.3)
整備センター	エネルギー事業	工場設備	15,078	1,966	71,603 (856.0)	7,724	789	97,162	10 (2.1)
レンタカー 計11カ所	カービジネス 事業	レンタル 車両	29,581	8,211	32,779 (364.14)	577,546	4,361	652,479	32 (26.5)
ブジョー、ジープ 計4ヶ所	カービジネス 事業	店舗設備	112,183	150,440	()		2,364	264,988	42 (2.9)
保険 計4ヶ所	ライフサポート 事業	店舗設備	8,021		()		2,533	10,554	21 (2.3)
賃貸マンション他	不動産関連事業	賃貸設備	205,430	258	2,566,884 (9,914.11)		55	2,772,628	1 ()

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 「従業員数」欄の()内は、外書きで臨時従業員数(最近1年間における平均雇用人数を1人1日8時間内で換算し算出)を記載しております。

(2) 国内子会社

平成30年4月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	従業員 数 (人)
(株)モーターレン東洋	BMW 販売店 (平塚市)	カービジネス 事業	店舗設備	632	358,156			247,312	606,102	57 (5.8)
(株)エース・ビルメン テナンス	ビルメンテナン ス業務 (横浜市鶴見区)	不動産関連 事業	事務所	48				47	96	8 (24.3)
メトロポリタン モータース(株)	BMW 販売店 (大和市)	カービジネス 事業	店舗設備	134,921	625,071		1,997	12,273	774,264	82 (8.2)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。
なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修及び除却等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定年月	完成後の増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
(株)モトーレン東洋	厚木店 (神奈川県厚木市)	カービジネス事業	店舗新築	438	245	借入金	平成29年9月	平成30年5月	
(株)サンオータス	メトロポリタンモーターズ(株)港南店 (横浜市港南区)	カービジネス事業	店舗新築	500	-	借入金	平成30年6月	平成31年1月	

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年7月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,230,500	3,230,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	3,230,500	3,230,500		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

新株予約権

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成23年7月28日開催の第60期定時株主総会特別決議に基づき、当社の取締役(5名)及び従業員(23名)並びに子会社の取締役(4名)及び従業員(42名)に対するストック・オプションとしての新株予約権

	事業年度末現在 (平成30年4月30日)	提出日の前月末現在 (平成30年6月30日)
新株予約権の数(個)	740	740
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 74,000(注)1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり362(注)2	同左
新株予約権の行使期間	平成25年10月14日から平成30年6月30日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 362 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3	同左

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株とする。ただし、新株予約権発行後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整する。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・併合の比率

また、上記のほか、発行後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は、合理的な範囲で付与株式数を調整することができる。なお、上記の調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り捨てる。

2. 新株予約権発行後、当社が当社普通株式につき、株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{1 \text{株あたり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

3. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記（注）2で定められる行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

新株予約権を行使することができる期間

平成25年10月14日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から平成30年6月30日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項取締役会の決議により決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

新株予約権の取得条項

取締役会の決議により決定する。

その他の新株予約権の行使の条件

取締役会の決議により決定する。

4. 当該新株予約権は、提出日の前月末現在（平成30年6月30日）をもって行使期間満了となるため、提出日時点では新株予約権は存在していない。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成12年6月20日 (注)1	745,500	3,230,500		411,250		462,500

(注) 1.1株を1.3株に株式分割

(5) 【所有者別状況】

平成30年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		7	12	17	7	2	971	1,016	
所有株式数 (単元)		1,356	1,125	11,403	130	2	18,280	32,296	900
所有株式数 の割合(%)		4.2	3.5	35.3	0.4	0.0	56.6	100.00	

(注) 1. 自己株式97,964株は、「個人その他」に979単元及び「単元未満株式の状況」に64株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
太田興産株式会社	横浜市港北区新横浜二丁目4番15号	827	26.43
北野淳子	横浜市港北区	279	8.91
JXTGホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町一丁目1番2号	234	7.47
太田寿美子	横浜市港北区	160	5.12
北野俊	横浜市港北区	117	3.74
サンオータス社員持株会	横浜市港北区新横浜二丁目4番15号	108	3.48
野川正巳	横浜市緑区	79	2.54
三堀重治	横浜市鶴見区	59	1.91
花房太郎	奈良県北葛城郡上牧町	51	1.63
河原晶子	神奈川県鎌倉市	39	1.27
計		1,957	62.50

(注) 1. 所有株式数は単位未満を切捨てて表示しております。
2. 上記のほか当社所有の自己株式97千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 97,900		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,131,700	31,317	同上
単元未満株式	普通株式 900		
発行済株式総数	3,230,500		
総株主の議決権		31,317	

【自己株式等】

平成30年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社サンオータス	横浜市港北区新横浜 二丁目4番15号	(自己保有株式) 97,900		97,900	3.03
計		97,900		97,900	3.03

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	97,964		97,964	

3 【配当政策】

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと考えており、業績に応じた成果の配分を行なうとともに、これを安定的に継続することを基本方針としております。

当社グループの剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であり、中間配当については取締役会であります。

なお、当社グループは、「取締役会の決議により毎年10月31日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当期の期末配当につきましては、上記基本方針にもとづき1株当たり8円(普通配当8円)の配当を実施することといたしました。

次期の配当につきましては、業績予想を織り込み、1株当たり8円(普通配当8円)を予定しております。

また、内部留保金につきましては、財務体質の強化および安定的な経営基盤の確保と株主資本利益の向上を達成するため、既存事業の新規出店や改装等の設備資金等に充当するほか、M&Aをはじめ、中・長期的な視野に立った新たな成長事業領域への展開を目指す資金として有効に活用してまいります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年7月24日 定時株主総会決議	25	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月	平成29年4月	平成30年4月
最高(円)	495	500	465	415	466
最低(円)	370	346	299	286	320

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年11月	12月	平成30年1月	2月	3月	4月
最高(円)	368	376	384	399	465	466
最低(円)	346	350	353	333	347	380

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性7名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	営業本部 本部長	北野 俊	昭和42年9月13日生	平成13年5月 (株)横浜銀行より出向 当社経営企画室 長 平成13年7月 取締役 経営企画室長 平成13年10月 (株)横浜銀行退職 平成15年1月 取締役 管理本部長 平成15年7月 常務取締役 カーライフサポート事業 部長 平成16年7月 代表取締役社長 兼カーライフサポー ト事業部長 平成17年2月 代表取締役社長 兼カーライフサポー ト事業部長 兼カービジネス事業部長 平成18年2月 代表取締役社長 兼カーライフサポー ト事業部長 兼カービジネス事業部 長 兼第一石油部長 平成19年3月 代表取締役社長 兼カーライフサポー ト事業部長 兼カービジネス事業部 長 兼第二石油部長 平成20年6月 代表取締役社長 兼営業本部本部長 (現) 平成29年4月 (株)モトーレン東洋 代表取締役社長就 任(現) メトロポリタンモーターズ(株) 代表取 締役社長就任(現) 双葉石油(株) 代表取締役社長就 任(現)	(注) 2	117
取締役	カービジネス事業部長 兼ライフサ ポート事業 部長	中村 直	昭和40年11月6日生	平成2年4月 当社入社 平成16年6月 レンタ・リース部長 平成19年3月 執行役員レンタ・リース部長 平成20年7月 取締役レンタ・リース部長 平成23年8月 取締役営業本部副本部長、レンタ・ リース部長 平成27年5月 取締役カービジネス事業部長兼ライフ サポート事業部長(現)	(注) 2	5
取締役	管理本部長	久米健夫	昭和38年2月19日生	昭和61年4月 (株)横浜銀行入行 平成27年11月 (株)横浜銀行より出向 当社総務部長 平成28年7月 執行役員総務部長 平成29年7月 取締役管理本部長(現)	(注) 2	
取締役		高橋理一郎	昭和22年10月17日	昭和52年4月 横浜弁護士会入会 昭和55年11月 横浜総合法律事務所設立、同代表弁護 士 平成26年1月 横浜総合法律事務所から分離・独立、 R & G 横浜法律事務所へ名称変更、同 事務所代表弁護士(現) 平成27年5月 (株)さいか屋 社外取締役(現) 平成27年7月 当社取締役(現)	(注) 1, 2	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		江畑敏行	昭和31年8月21日生	昭和55年4月 当社入社 平成16年6月 当社経理部長 平成28年7月 当社監査役(現)	(注)3	2
監査役		小嶋郁夫	昭和26年12月28日生	昭和46年4月 神奈川県警察入庁 平成18年3月 神奈川県警察本部総務部監理官 平成20年3月 神奈川県浦賀警察署長 神奈川県警察本部生活安全部生活安全 平成21年3月 総務課長 平成22年3月 神奈川県幸警察署長 平成24年3月 神奈川県警察退職 平成24年4月 総合警備保障(株)入社 平成29年3月 同社退職 平成30年7月 当社監査役(現)	(注)4	-
監査役		北村俊和	昭和27年11月6日生	昭和51年4月 (株)横浜銀行入社 平成6年6月 同行十日市場支店兼横浜若葉台支店長 平成17年6月 (株)はまぎん事務センター常務取締役 平成18年4月 横浜キャリアサービス代表取締役 平成20年8月 横浜銀行健康保険組合常務理事 平成24年11月 同組合退職 平成25年6月 (株)コーエーテクモホールディングス非 常勤監査役(現) 平成26年7月 当社監査役(現)	(注)4	-
計						124

- (注) 1. 取締役高橋理一郎は、社外取締役であります。
2. 取締役の任期は、平成29年4月期に係る定時株主総会終結の時から2年までであります。
3. 監査役江畑敏行の任期は、平成28年4月期に係る定時株主総会終結の時から4年までであります。
4. 監査役小嶋郁夫及び北村俊和は社外監査役であり、任期は平成30年4月期に係る定時株主総会の日から4年までであります。
5. 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各事業部の業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。
提出日現在の執行役員は次の5名であります。

地位	職名	氏名
執行役員	カービジネス事業部長兼ライフサポート事業部長	中村 直
執行役員	管理本部長	久米 健夫
執行役員	保険推進室長	小幡 和仁
執行役員	経理部長	保坂 和明
執行役員	経営企画室長	戸原 秀之

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方)

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスについては、経営上の重要課題との認識を持ち、法令遵守の趣旨を尊重しながら、「経営の効率性の向上」、「経営の健全性の維持」、「経営の透明性の確保」を経営原則として、株主の負託に応え、同時にすべてのステークホルダーの利益に適う経営の実現をめざしております。

企業統治の体制

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、有価証券報告書提出日現在の取締役は4名で、うち1名が社外取締役、監査役は3名で、うち2名が社外監査役となっております。当該制度の採用理由は、監査役制度を一層充実させることにより、経営活動に対する監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることができることと判断したものであります。

会社の経営上の意思決定は取締役会にて行う体制としております。業務執行に関しては、代表取締役を始めとして各取締役が営業部門並びに管理部門の職務執行の監督・指導を行っております。平成20年6月には営業本部制を導入し、経営方針の決定、業務執行状況の管理監督機能並びに牽制機能の強化と経営環境の変化に対し迅速かつ的確に対処するための業務執行体制を整備いたしました。

会社の機関の内容

当社の取締役は9名以内とする旨定款で定めておりますが、現在の取締役会は取締役4名で構成され、原則として取締役及び監査役全員出席のもと月1回以上開催し、経営上の重要事項、方針及び業務の執行を決定しております。また経営上の重要事項の決議を適時なものとするため、月1回の定例取締役会開催のほか、経営意思決定の迅速化を図るため、臨時取締役会を機動的に開催しております。

また、執行役員制度を導入し業務執行体制の強化を図っております。

取締役会は決議機関であるばかりでなく、執行役員等を含めた業務執行部門を監督する機関と位置づけております。

経営会議

経営会議は、取締役会決議事項の内容、事業運営に係る法改正等の内容（コンプライアンスの観点）等の周知の場として、取締役、常勤監査役、執行役員及び営業関連部長により構成され、毎月1回定期的に開催しております。またこの中で、当社グループ全体としての業務運営上の問題点、リスク管理への対応等を検討しております。

営業本部会議

取締役及び営業関係部の事業別に部課長（含む子会社）で構成される営業本部会議を月1回、2乃至3日間にわたって開催しております。この会議において、営業関係部の各事業（含む子会社）の拠点別・商品別の売上・損益動向を中心とする業務執行状況をチェックする仕組みを採っております。

また、上記の管理組織において検討された内容は事業部ごとに月1回以上実施されるマネージャー会議において、各拠点の全社員へ周知徹底される仕組みを採っております。

予算実績検討会議

社長、財務担当役員、常勤監査役、経営企画室及び経理部門の部(室)長及び課長（含む主要子会社）で構成される予算実績検討会を月1回開催し、月次損益の計画・実績の検討並びに経理部門に係る諸課題について検討を行っております。

リスク管理・コンプライアンス対応委員会

選任された業務部門の部課長（含む子会社）で構成されるリスク管理・コンプライアンス対応委員会を開催し、コンプライアンス及び人事等に関する諸課題について検討を行っております。

内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

金融商品取引法により要請されている、財務報告に係る内部統制システムの整備及び運用については、内部監査室が主管しております。財務報告に係る内部統制の整備、運用状況の評価に関し有効かつ適正に機能しているかについて、実施基準に従って検証作業に取り組んでおります。その結果、平成30年4月30日現在の当社グループの財務報告に係る内部統制の有効性を確認しております。引き続き、財務報告に係る内部統制の整備、運用状況及び評価の方法等については、必要に応じて見直し及び改善を実施してまいります。

また、当社グループは、社内規程により職務分掌並びに職務権限を定め、業務及び権限を分担することにより内部牽制を図るとともに、リスク管理規程に基づき、取締役会及び経営会議において経営全般に関するリスク管理を行い、担当役員及び部門長が各部門における所管業務に係るリスク管理を行っております。

提出会社の子会社の業務の適性を確保するための体制整備の状況

当社は、「関係会社管理規程」に基づき、グループ会社から当社への協議承認事項及び報告事項を定め、報告等に関する体制を整備しております。

また、当社からグループ会社へ取締役及び監査役を派遣し、グループ会社の業務執行の監督あるいは経営の監視を行うとともに、取締役会及び経営会議において業務の執行状況及び財務状況等の報告を受け、グループ会社の経営内容を定期的・継続的に把握し、必要に応じ指示、助言、指導等を行い、業務の適性を確保しております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部管理体制の整備及び強化

社内業務全般にわたる諸規程を整備し、組織規定、職務分掌規程及び職務権限規程等により、各職位は責任と権限を明確にしたうえで職務を遂行しておりその職務遂行状況を監査しております。また、法令及び制度等の改正時には、社内諸規程の見直しを行っております。

当社子会社におけるコンプライアンス違反取引に関する第三者委員会調査による再発防止策の提言にもとづき、子会社独自のガバナンスの強化、コンプライアンス意識の周知徹底、内部監査室の新設による内部統制フローの再構築及びモニタリングチェック体制の強化、社外通報受付窓口の増設による内部通報制度の強化等の施策を実施することにより、より実効性を高めた内部統制の強化を図っております。

内部監査体制

監査役（3名）及び管理本部スタッフ（5名）が連携して、年度を通じた監査計画書に基づいて内部監査を実施しております。また、随時社長からの特命事項については、管理本部、経営企画室及び内部監査室のスタッフが連携して監査等を実施しています。中間期および期末の業務監査では、管理本部スタッフも追加され、チェックリストに基づき、販売用資産（ディーラー部門の車両、部品、ガソリンスタンドの燃料油、販売用商品）のほか、レンタカー貸出用車両、商品カタログから小口現金ならびに等価物の管理状況にいたるまで監査を行っております。さらに車両販売における注文書の作成及びローン契約に関する業務監査を行っております。

監査役監査

監査役監査につきましては、常勤監査役1名及び社外監査役2名で実施しております。

監査役は取締役会に出席するとともに、社内の重要会議にも参加し、取締役会及び取締役の意思決定・業務遂行に関して、独立した立場から法令違反等の有無について監査を実施しております。

また、内部監査については、管理本部スタッフ及び内部監査室のスタッフと連携し内部監査を実施しており、内部監査の結果を監査役会に報告するとともに取締役会にて報告し、不備あるものについては「是正依頼書」により当該営業責任者に対して改善指示を行い、改善後に「是正報告書」を取締役に提出いたします。

社外取締役及び社外監査役

当社では、社外取締役及び社外監査役の選任につきましては、具体的な基準や方針を定めておりませんが、専門的な知見を有し、独立した立場から経営に対する監督又は監査の機能及び役割を担い、一般株主と利益相反が生じる懸念がないことを基本的な考え方としております。

当社の社外取締役は1名であり、取締役高橋理一郎は株式会社さいか屋の社外取締役を兼務しておりますが、同社と当社との間には特別な関係はありません。

社外取締役高橋理一郎は、弁護士資格を有し、法律に関する高い見識をもとに独立した立場から、当社の経営方針及び業務執行の妥当性・適正性を確保するための助言・監督を行うため、選任いたしました。

当社の社外監査役は、小嶋郁夫、北村俊和の2名であります。社外監査役と当社との間には人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役小嶋郁夫と当社との間には特別な関係はありません。

また、社外監査役北村俊和は、株式会社コーエーテクモホールディングスの非常勤監査役を兼務しておりますが、同社と当社との間には特別な関係はありません。

社外監査役小嶋郁夫は、神奈川県警察へ入庁後、神奈川県警本部生活安全部生活安全総務課長、浦賀・幸警察署長を歴任し、高い公共性を有し、当社の事業全般にわたり高い倫理観と社会性を持ち、その経歴に基づく知識を活かし独立的な立場から経営の監督と監視を行っております。

社外監査役北村俊和は、金融機関における長年の経験と財務などに関する豊富な知見を有し、これらを活かして、外部からの客観的な視点で経営の監督と監視を行っております。

当社は、社外の独立した立場からの監視により、取締役の意思決定の妥当性及び適正性を確保するために社外監査役を選任しております。また、社外監査役は、監査役会において監査役相互の情報共有を図るほか、必要に応じて会計監査人との情報交換や、会計監査人による監査報告会に出席するなど、相互に連携を取り合いながら監査業務に当たっております。

また、当社は取締役及び監査役が期待される役割を十分発揮できるよう、また、社内外を問わず広く適任者が得られるよう会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の同法第423条第1項の責任について、法令に定める要件に該当する場合には、法令に定める限度において免除することができる旨を定款で定めております。

当社は取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び社外監査役との間において、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

役員報酬等

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	ストック・ オプション	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く)	44	36	0	7	4
監査役(社外監査役を除く)	6	6	0	0	1
社外役員	4	4			3

- (注) 1. 当事業年度末現在の員数は、取締役4名、監査役3名であります。
2. 報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、役員ごとの報酬等の総額につきましては、記載を省略しております。
3. 取締役の使用人兼務部分に対する報酬は支給しておりません。
4. 当社は、役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。
5. 退職慰労金は、引当金繰入額として費用処理した額であります。
6. 上記支給額その他、故取締役古川晴男氏に対し弔慰金8百万円を支給しております。

取締役の定数

当社の取締役の定数は、定款により9名以内と規定しております。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、その決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項とその理由

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式の取得ができる旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主の皆様への機動的な利益還元を可能とするため、取締役会の決議によって、毎年10月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

3銘柄 34,227千円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)コンコルディア・ フィナンシャルグループ	30,000	15,366	取引先との関係維持
JXTGホールディングス(株)	19,802	9,962	取引先との関係維持

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)コンコルディア・ フィナンシャルグループ	30,000	19,110	取引先との関係維持
JXTGホールディングス(株)	20,910	14,938	取引先との関係維持

保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社グループは、東陽監査法人を選任し、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。

業務を執行した公認会計士の氏名

指定社員 業務執行社員 佐山正則、田中章公、桐山武志

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名、その他2名

監査法人による監査結果については、監査役から社長も出席する経営会議の場において報告し、内容を確認したうえで、各部門で改善すべき事項の確認を行っております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	25		30	
連結子会社				
計	25		30	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年5月1日から平成30年4月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年5月1日から平成30年4月30日まで)の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

当社の監査公認会計士等は次のとおり異動しております。

第66期連結会計年度の連結財務諸表及び第66期事業年度の財務諸表 新日本有限責任監査法人

第67期連結会計年度の連結財務諸表及び第67期事業年度の財務諸表 東陽監査法人

当該異動について臨時報告書を提出しております。臨時報告書に記載した事項は次のとおりです。

(1) 異動に係る監査公認会計士等の名称

選任する監査公認会計士等

東陽監査法人

退任する監査公認会計士等

新日本有限責任監査法人

(2) 異動の年月日

平成29年7月25日

(3) 退任する監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日

平成28年7月27日

(4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書における意見等に関する事項

該当事項はありません。

(5) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である新日本有限責任監査法人は平成29年7月25日開催予定の第66期定時株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、その後任として東陽監査法人を会計監査人として選任するものであります。

(6) 上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等の記載事項に係る退任する監査公認会計士等の意見

特段の意見はない旨の回答を得ております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、監査法人等の行う研修会へ参加し、社内での情報共有を図っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,455,928	1,182,031
受取手形及び売掛金	1,531,795	1,515,427
商品	2,778,468	2,664,708
貯蔵品	15,119	10,260
繰延税金資産	1,422	29,474
その他	701,645	721,924
貸倒引当金	46,677	94,547
流動資産合計	6,437,703	6,029,278
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,706,083	2,658,157
減価償却累計額	1,781,236	1,806,388
建物及び構築物(純額)	2 924,847	2 851,768
機械装置及び運搬具	922,749	1,583,394
減価償却累計額	415,071	424,574
機械装置及び運搬具(純額)	507,677	1,158,819
土地	2 4,690,099	2 4,432,926
リース資産	1,246,078	1,166,108
減価償却累計額	680,582	527,498
リース資産(純額)	565,496	638,609
その他	310,411	308,124
減価償却累計額	264,308	268,174
その他(純額)	46,102	39,949
建設仮勘定	105,480	247,183
有形固定資産合計	6,839,704	7,369,258
無形固定資産		
その他	19,341	18,694
無形固定資産合計	19,341	18,694
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 2 55,587	1, 2 34,307
長期貸付金	76,262	100,000
差入保証金	531,480	490,762
繰延税金資産	32,782	37,531
その他	371,625	383,123
貸倒引当金	9,417	9,405
投資その他の資産合計	1,058,319	1,036,320
固定資産合計	7,917,365	8,424,272
資産合計	14,355,069	14,453,551

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2, 3 2,717,889	2, 3 2,242,435
短期借入金	2 6,258,298	2 7,098,870
1年内返済予定の長期借入金	2 202,960	2 131,960
リース債務	305,821	315,169
未払法人税等	21,201	26,786
賞与引当金	90,496	108,084
その他	2 834,368	2 787,181
流動負債合計	10,431,036	10,710,488
固定負債		
長期借入金	2 380,200	124,240
リース債務	337,329	387,628
繰延税金負債	2,063	3,364
役員退職慰労引当金	93,373	87,485
退職給付に係る負債	436,484	461,694
その他	84,673	71,727
固定負債合計	1,334,123	1,136,140
負債合計	11,765,160	11,846,628
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,250	411,250
資本剰余金	462,500	462,500
利益剰余金	1,755,752	1,766,441
自己株式	48,969	48,969
株主資本合計	2,580,532	2,591,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,780	13,555
その他の包括利益累計額合計	6,780	13,555
新株予約権	2,595	2,146
純資産合計	2,589,908	2,606,923
負債純資産合計	14,355,069	14,453,551

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
売上高	29,702,226	30,056,676
売上原価	¹ 24,271,745	¹ 24,313,114
売上総利益	5,430,481	5,743,561
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	1,804,567	1,789,823
雑給	579,160	553,031
賞与引当金繰入額	79,890	97,006
退職給付費用	71,374	63,952
役員退職慰労引当金繰入額	1,499	7,391
地代家賃	754,597	766,139
貸倒引当金繰入額	5,314	6,294
その他	2,290,567	2,325,484
販売費及び一般管理費合計	5,586,971	5,609,124
営業利益又は営業損失()	156,490	134,437
営業外収益		
受取利息	1,544	1,637
受取配当金	810	792
受取手数料	47,533	30,085
受取補償金	53,991	-
その他	37,568	20,779
営業外収益合計	141,448	53,295
営業外費用		
支払利息	75,748	98,558
その他	20,161	14,295
営業外費用合計	95,910	112,854
経常利益又は経常損失()	110,952	74,878
特別利益		
固定資産売却益	² 74,227	² 12,372
新株予約権戻入益	159	449
子会社清算益	-	1,848
特別利益合計	74,387	14,670
特別損失		
固定資産売却損	-	³ 31
固定資産除却損	⁴ 33,775	⁴ 16,874
減損損失	⁵ 124,833	⁵ 5,578
役員退職慰労金	-	8,150
貸倒引当金繰入額	-	41,562
特別損失合計	158,609	72,197
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失()	195,174	17,351
法人税、住民税及び事業税	14,708	20,668
法人税等調整額	33,350	32,801
法人税等合計	48,059	12,133
当期純利益又は当期純損失()	243,233	29,485
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失()	243,233	29,485

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
当期純利益又は当期純損失 ()	243,233	29,485
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	464	6,774
その他の包括利益合計	1 464	1 6,774
包括利益	242,769	36,259
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	242,769	36,259
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	411,250	462,500	2,024,046	48,969	2,848,826
当期変動額					
剰余金の配当			25,060		25,060
親会社株主に帰属する当期純損失()			243,233		243,233
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			268,293		268,293
当期末残高	411,250	462,500	1,755,752	48,969	2,580,532

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	6,316	6,316	2,755	2,857,897
当期変動額				
剰余金の配当				25,060
親会社株主に帰属する当期純損失()				243,233
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	464	464	159	304
当期変動額合計	464	464	159	267,989
当期末残高	6,780	6,780	2,595	2,589,908

当連結会計年度(自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	411,250	462,500	1,755,752	48,969	2,580,532
当期変動額					
剰余金の配当			18,795		18,795
親会社株主に帰属する当期純利益			29,485		29,485
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			10,689		10,689
当期末残高	411,250	462,500	1,766,441	48,969	2,591,222

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	6,780	6,780	2,595	2,589,908
当期変動額				
剰余金の配当				18,795
親会社株主に帰属する当期純利益				29,485
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	6,774	6,774	449	6,325
当期変動額合計	6,774	6,774	449	17,014
当期末残高	13,555	13,555	2,146	2,606,923

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失()	195,174	17,351
減価償却費	668,406	693,572
減損損失	124,833	5,578
貸倒引当金の増減額(は減少)	16,596	47,857
賞与引当金の増減額(は減少)	16,312	17,588
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5,860	25,209
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	118	5,887
受取利息及び受取配当金	2,355	2,430
受取補償金	53,991	-
支払利息	75,748	98,558
固定資産売却損益(は益)	74,227	12,340
固定資産除却損	33,775	16,874
売上債権の増減額(は増加)	66,262	16,166
たな卸資産の増減額(は増加)	568,586	1,479,076
仕入債務の増減額(は減少)	475,827	485,622
未払消費税等の増減額(は減少)	34,108	41,834
未収入金の増減額(は増加)	99,164	43,750
未払金の増減額(は減少)	72,167	41,141
子会社清算損益(は益)	-	1,848
その他	4,995	20,118
小計	1,547,357	1,814,194
利息及び配当金の受取額	2,355	2,292
利息の支払額	76,267	98,639
補償金の受取額	77,090	-
法人税等の支払額	43,672	18,233
法人税等の還付額	2,678	2,579
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,509,540	1,702,195
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	79,216	54,003
有形固定資産の取得による支出	1,683,703	2,574,353
有形固定資産の売却による収入	172,555	270,395
無形固定資産の取得による支出	5,218	663
投資有価証券の取得による支出	623	644
差入保証金の差入による支出	32,440	215
差入保証金の回収による収入	41,423	38,478
短期貸付金の増減額(は増加)	2,000	18,284
長期貸付金の回収による収入	16,284	76,262
子会社の清算による収入	-	31,848
その他	21,071	5,082
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,431,577	2,199,693

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	277,269	840,571
長期借入金の返済による支出	281,328	326,960
リース債務の返済による支出	365,614	325,055
配当金の支払額	25,325	18,959
財務活動によるキャッシュ・フロー	394,999	169,596
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	317,035	327,901
現金及び現金同等物の期首残高	1,716,061	1,399,026
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,399,026	1 1,071,124

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

主要な連結子会社の名称

(株)モトーレン東洋

(株)エース・ビルメンテナンス

メトロポリタンモーターズ(株)

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

双葉石油(株)

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

前期まで主要な非連結子会社及び持分法を適用していない非連結子会社として記載していた(株)サンメディアは平成29年10月25日付で清算いたしました。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称等

非連結子会社

双葉石油(株)

(持分法を適用していない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、(株)モトーレン東洋、メトロポリタンモーターズ(株)の決算日は、3月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、4月1日から連結決算日4月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

□ たな卸資産

商品

石油商品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

新車・中古車

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

カー用品・その他の用品

総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)及び車両運搬具のうちレンタル車両については定額法とし、それ以外については定率法によっております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物、建物附属設備及び構築物 2年～50年

機械装置及び運搬具 2年～15年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法によっております。

ハ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

ハ 役員退職慰労引当金

当社において役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく当連結会計年度末の要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

ハ ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

税効果会計に係る会計基準の適用指針

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年4月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

収益認識に関する会計基準

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年4月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
投資有価証券(株式)	30,030千円	30千円

- 2 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ)担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
建物及び構築物	467,169千円	444,083千円
土地	4,613,974千円	4,356,801千円
投資有価証券	8,074千円	11,466千円
計	5,089,219千円	4,812,350千円

(ロ)上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
支払手形及び買掛金	466,814千円	491,930千円
短期借入金	3,260,000千円	3,260,000千円
1年内返済予定の長期借入金	96,000千円	50,000千円
未払金	11,092千円	11,141千円
長期借入金	174,000千円	千円
計	4,007,907千円	3,813,071千円

- 3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
支払手形	62,876千円	33,034千円

- 4 当社グループは運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
当座貸越極度額	5,500,000千円	5,000,000千円
貸出コミットメントの総額	千円	千円
借入実行残高	4,900,000千円	4,900,000千円
差引額	600,000千円	100,000千円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
	6,073千円	392千円

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

固定資産売却益は、主に大和テクニカルセンターを売却したことに伴うものであります。

当連結会計年度(自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)

固定資産売却益は、主に小田原(国府津)の土地を売却したことに伴うものであります。

- 3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
機械装置及び運搬具	千円	31千円
計	千円	31千円

- 4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
建物及び構築物	24,764千円	8,518千円
機械装置及び運搬具	7,974千円	2,197千円
その他	1,036千円	6,158千円
計	33,775千円	16,874千円

5 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
(株)モトーレン東洋 (横浜市港北区)	カーディーラー	建物、構築物、 機械及び装置、 工具、器具及び備品	79,796千円
Zoo Adventure 高松店 (香川県高松市)	商業用施設	リース資産	19,617千円
ブジョー 相模原店 (相模原市南区)	カーディーラー	建物、構築物、 機械及び装置、車輛運搬具、 工具、器具及び備品	17,954千円
ライフエネルギーSS 3店舗 (神奈川県藤沢市、川崎市 麻生区、横浜市緑区)	サービスステーション	リース資産	7,464千円

当社グループは、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として、子会社においては全社を、また親会社は1店舗毎にグルーピングを行っております。子会社である(株)モトーレン東洋は、収益悪化に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額しました。また、親会社である(株)サンオータスは、閉鎖した商業用施設について、今後使用の見込みのないものにつき、カーディーラーについては、収益の悪化による経常的な損失が予想されるため、減損損失を計上しました。また、サービスステーションについては、収益が悪化している3店舗につき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、合わせて当該減少額を減損損失(124,833千円)として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物50,507千円、構築物20,646千円、機械及び装置7,799千円、工具、器具及び備品9,100千円、車両運搬具2,094千円、リース資産30,592千円、建設仮勘定1,421千円、無形固定資産2,671千円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は処分見込価額を使用しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
ほけんの窓口大和駅前店 (神奈川県大和市)	商業用施設	建物	2,939千円
ライフエネルギーSS 2店舗(神奈川県厚木市、 横浜市栄区)	サービスステーション	リース資産等	2,638千円

当社グループは、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として、子会社においては全社を、また親会社は原則的には1店舗毎にグルーピングを行っております。親会社である(株)サンオータスは、閉鎖する予定のある保険事業の商業用施設について、今後使用の見込みのないものにつき、また、サービスステーションについては、収益が悪化している2店舗につき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、合わせて当該減少額を減損損失(5,578千円)として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は処分見込価額を使用しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	663千円	8,075千円
組替調整額	千円	千円
税効果調整前	663千円	8,075千円
税効果額	199千円	1,301千円
その他有価証券評価差額金	464千円	6,774千円
その他の包括利益合計	464千円	6,774千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,230,500			3,230,500

(変動事由の概要)

当連結会計年度における変動はありません。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	97,964			97,964

(変動事由の概要)

当連結会計年度における変動はありません。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストックオプションとしての新株予約権	普通株式	95		5	89	2,595
合計			95		5	89	2,595

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年7月27日 定時株主総会	普通株式	25,060	8.00	平成28年4月30日	平成28年7月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年7月25日 定時株主総会	普通株式	18,795	利益剰余金	6.00	平成29年4月30日	平成29年7月26日

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,230,500			3,230,500

(変動事由の概要)

当連結会計年度における変動はありません。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	97,964			97,964

(変動事由の概要)

当連結会計年度における変動はありません。

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(千株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストックオプションとしての新株予約権	普通株式	89		15	74	2,146
合計			89		15	74	2,146

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年7月25日 定時株主総会	普通株式	18,795	6.00	平成29年4月30日	平成29年7月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年7月24日 定時株主総会	普通株式	25,060	利益剰余金	8.00	平成30年4月30日	平成30年7月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
現金及び預金勘定	1,455,928千円	1,182,031千円
預入期間3ヶ月を超える定期預金	56,902千円	110,906千円
現金及び現金同等物	1,399,026千円	1,071,124千円

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

当連結会計年度において新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の金額は、それぞれ257,726千円及び278,017千円であります。

当連結会計年度(自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)

当連結会計年度において新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の金額は、それぞれ416,037千円及び446,359千円であります。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

1 リース資産の内容

・有形固定資産

主としてエネルギー事業におけるPOSシステム(工具、器具及び備品)及びカービジネス事業におけるレンタル車輛(機械装置及び運搬具)であります。

2 リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また資金調達については銀行借り入れによる方針です。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの販売管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、その殆んどが1年以内の支払期日であります。

借入金及びリース債務のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金及びリース債務は主に設備投資に係る資金調達であります。変動金利による借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(5)重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

また、営業債務や借入金並びにリース債務は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次で資金繰計画を作成するとともに、手許流動性の維持に努めるなどの方法により流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次に含めておりません。(注)2を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年4月30日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	1,455,928	1,455,928	
(2)受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	1,531,795 41,587	1,531,795 41,587	
(3)投資有価証券 その他有価証券	1,490,208 25,328	1,490,208 25,328	
資産計	2,971,465	2,971,465	
(4)支払手形及び買掛金	2,717,889	2,717,889	
(5)短期借入金	6,258,298	6,258,298	
(6)長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	583,160	586,110	2,950
(7)リース債務	643,151	633,116	10,034
負債計	10,202,499	10,195,413	7,084
デリバティブ取引		2,258	2,258

当連結会計年度(平成30年4月30日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	1,182,031	1,182,031	
(2)受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	1,515,427 36,709	1,515,427 36,409	
(3)投資有価証券 その他有価証券	1,478,717 34,048	1,478,717 34,048	
資産計	2,694,797	2,694,797	
(4)支払手形及び買掛金	2,242,435	2,242,435	
(5)短期借入金	7,098,870	7,098,870	
(6)長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	256,200	257,630	1,430
(7)リース債務	702,798	698,858	3,939
負債計	10,300,304	10,297,795	2,509

売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、受取手形及び売掛金については、信用リスクを個別に把握することが困難であることから、貸倒引当金を信用リスクであると見做し、時価を算定しております。

(3)投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(4)支払手形及び買掛金、(5)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。ただし、変動金利による資金調達については、金利が一定期間ごとに更改される条件となっているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいといえることから、当該帳簿価額によっております。また、一部の長期借入金における金利スワップを内包している複合金融商品については、複合金融商品全体の時価を算出し、長期借入金の時価にあわせて記載しております。

(7)リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」を参照ください。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位: 千円)

区分	平成29年4月30日	平成30年4月30日
非上場株式	30,259	259
差入保証金	531,480	490,762

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。また、差入保証金は、返済スケジュールが未確定で将来キャッシュフローを見積もることができず時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,455,928			
受取手形及び売掛金	1,531,795			
合計	2,987,724			

当連結会計年度(平成30年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,182,031			
受取手形及び売掛金	1,515,427			
合計	2,697,458			

(注) 4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	6,258,298					
長期借入金	202,960	173,130	108,400	82,670	16,000	
リース債務	305,821	199,565	101,900	28,559	5,381	1,923
合計	6,767,080	372,695	210,300	111,229	21,381	1,923

当連結会計年度(平成30年4月30日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	7,098,870					
長期借入金	131,960	72,400	51,840			
リース債務	315,169	216,758	118,142	49,524	2,075	1,127
合計	7,546,000	289,158	169,982	49,524	2,075	1,127

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年4月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	25,328	17,222	8,105
小計	25,328	17,222	8,105
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式			
小計			
合計	25,328	17,222	8,105

- (注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額 228千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。
2. 当連結会計年度において減損処理を行った投資有価証券はありません。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成30年4月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	34,048	17,867	16,181
小計	34,048	17,867	16,181
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式			
小計			
合計	34,048	17,867	16,181

- (注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額 228千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。
2. 当連結会計年度において減損処理を行った投資有価証券はありません。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

2 連結会計年度に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約金額 (千円)	契約金額のうち 1年超(千円)	時価 (千円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	160,000	124,000	2,258

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約金額 (千円)	契約金額のうち 1年超(千円)	時価 (千円)
金利スワップの特 例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金			

(注) 金利スワップ取引は、当連結会計年度中に終了しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職一時金制度、確定拠出年金制度、厚生年金基金制度及び中小企業退職金共済制度を併用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額(退職給付費用)について、厚生年金基金は平成27年11月25日付で厚生労働大臣より解散許可を受け、清算終了に向けて手続きを行っております。よって前連結会計年度及び当連結会計年度の拠出額はありません。

また、当基金の解散による追加負担額の発生は見込まれておりません。

(1) 複数事業主制度の積立状況

項目	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
年金資産の額 1	12,292,807千円	12,221,349千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額 2	10,277,214千円	10,276,759千円
差引額	2,015,592千円	1,944,589千円

- 前連結会計年度は平成29年4月末日現在、当連結会計年度は平成30年4月末日現在の数値を記載しております。
- 前連結会計年度は平成29年3月末日現在、当連結会計年度は平成30年3月末日現在の数値を記載しております。

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
8.4%	8.4%

(3) 補足説明

上記の(1)差引額的主要要因は、年金財政計算上の過去勤務債務(本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年の元利均等償却であります。)、繰越不足金及び代行部分の返上であります。平成26年4月1日に代行部分の将来分の返上を実施し、平成26年4月25日以降平成29年4月30日までに国に返却額10,162,244千円(最低責任準備金)の納付を行いました。

なお、厚生年金基金の解散に伴い、平成27年10月の納入告知分が最終の掛金となっているため、掛金に占める当社グループの割合は平成27年10月時点で算出しております。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	442,345千円	436,484千円
退職給付費用	65,052千円	64,164千円
退職給付の支払額	49,393千円	19,250千円
制度への拠出額	21,519千円	19,705千円
退職給付に係る負債の期末残高	436,484千円	461,694千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
非積立型制度の退職給付債務	436,484千円	461,694千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	436,484千円	461,694千円

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
退職給付に係る負債	436,484千円	461,694千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	436,484千円	461,694千円

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
簡便法で計算した退職給付費用	65,052千円	64,164千円

3 確定拠出制度

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
確定拠出制度への要拠出額	21,519千円	19,705千円

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
販売費及び一般管理費	千円	千円

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
新株予約権戻入益	159千円	449千円

3 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1)ストック・オプションの内容

	平成23年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 5名 当社の従業員 42名 当社子会社の取締役及び従業員 27名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 120,000株
付与日	平成23年10月13日
権利確定条件	付与日(平成23年10月13日)以降、権利確定日(平成25年10月13日)まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	自平成23年10月13日 至平成25年10月13日
権利行使期間	自平成25年10月14日 至平成30年 6月30日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年4月期)において存在したストックオプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算しております。

ストック・オプションの数

	平成23年ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	
付与	
失効	
権利確定	
未確定残	
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	89,500
権利確定	
権利行使	
失効	15,500
未行使残	74,000

単価情報

	平成23年ストック・オプション
権利行使価格(円)	362
行使時平均株価(円)	
付与日における公正な評価単価(円)	29

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
繰延税金資産		
(短期)		
賞与引当金	28,648千円	33,684千円
未払事業税	3,521千円	3,268千円
未払事業所税	2,690千円	2,443千円
棚卸資産評価損	14,765千円	1,933千円
貸倒引当金	11,358千円	27,495千円
その他	7,097千円	7,091千円
小計	68,082千円	75,916千円
(長期)		
退職給付に係る負債	137,661千円	145,919千円
役員退職慰労引当金	28,049千円	26,279千円
減損損失	37,455千円	25,655千円
投資有価証券評価損	359千円	359千円
減価償却費超過額	17,897千円	18,280千円
資産除去債務	16,632千円	17,454千円
長期前払費用否認	52,571千円	42,121千円
貸倒引当金	2,829千円	2,825千円
会員権評価損	7,162千円	7,162千円
繰越欠損金	291,499千円	306,630千円
小計	592,119千円	592,689千円
評価性引当額	625,997千円	601,599千円
繰延税金資産計	34,204千円	67,006千円
繰延税金負債		
(長期)		
その他有価証券評価差額金	1,324千円	2,625千円
その他	738千円	738千円
小計	2,063千円	3,364千円
繰延税金負債計	2,063千円	3,364千円
繰延税金資産純額	32,141千円	63,642千円

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当連結会計年度 (平成30年4月30日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,422千円	29,474千円
固定資産 - 繰延税金資産	32,782千円	37,531千円
固定負債 - 繰延税金負債	2,063千円	3,364千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
法定実効税率 (調整)		30.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目		5.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		24.3%
住民税均等割等		36.5%
評価性引当金の増減		140.8%
その他		23.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		69.9%

(注) 前連結会計年度は税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社では、神奈川県において、賃貸用の不動産を有しております。平成29年4月期における当該賃貸等不動産に関する損益は63,838千円(賃貸収入は売上に、主な賃貸費用は売上原価及び販売費及び一般管理費に計上)であります。平成30年4月期における当該賃貸等不動産に関する損益は72,271千円(賃貸収入は売上に、主な賃貸費用は売上原価及び販売費及び一般管理費に計上)であります。

賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び期中における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自平成28年5月1日 至平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自平成29年5月1日 至平成30年4月30日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	1,636,247	2,476,889
	期中増減額	840,641	23,508
	期末残高	2,476,889	2,453,381
期末時価		2,690,108	2,644,469

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、店舗用不動産の取得554,817千円、SSからの転用資産297,035千円であり、主な減少額は減価償却費14,799千円であります。
当連結会計年度の主な減少額は減価償却費23,508千円であります。

3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標等を合理的に調整した金額によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは、自動車に関するあらゆる商品・サービス・情報の提供を実現するための「トータル・カーサービス」を展開しており、当社のほか、(株)モトーレン東洋、メトロポリタンモーターズ(株)及び(株)エースビルメンテナンスが連携して事業の運営を行っております。従って、当社グループは、社内業績管理単位である商品・サービス別の事業部門及び子会社を基礎とし、経済的特徴が類似している事業セグメントを集約した「エネルギー事業」、「カービジネス事業」、「ライフサポート事業」及び「不動産関連事業」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「エネルギー事業」は、ガソリンを中心とした燃料油及びタイヤ、バッテリー等のカーケア商品の販売及び車検・整備等のサービス提供を行っております。「カービジネス事業」は、BMW車、プジョー車及びジープ車の3ブランドの輸入車正規ディーラー及び、オリックスレンタカーのフランチャイズ店舗の運営を行っております。「ライフサポート事業」は、来店型保険ショップ保険の窓口のフランチャイズ店舗の運営を行っております。「不動産関連事業」は、ビル・メンテナンス業及び不動産賃貸業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、連結損益計算書の営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
	エネルギー 事業	カービジネ ス事業	ライフサ ポート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,554,826	19,537,107	186,147	424,146	29,702,226		29,702,226
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	114,725	17,409	2,458	25,281	159,875	159,875	
計	9,669,551	19,554,517	188,605	449,427	29,862,101	159,875	29,702,226
セグメント利益又は損失 ()	13,805	73,605	46,111	114,650	18,871	137,618	156,490
セグメント資産	3,345,161	7,724,597	40,196	1,928,012	13,037,968	1,317,100	14,355,069
その他の項目							
減価償却費 (注)3	63,712	556,039	14,202	11,413	645,367	21,418	666,786
特別損失 (減損損失)	7,464	97,750	19,617		124,833		124,833
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	36,508	1,605,937		683,653	2,326,100	7,918	2,334,018

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 137,618千円には、セグメント間取引消去125,706千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 263,324千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。
 - (2) セグメント資産の調整額1,317,100千円には、セグメント間の債権債務等の調整額 741,512千円、各報告セグメントに配分していない全社資産2,058,612千円が含まれております。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない本社建物及び構築物であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間の振替によるものであります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. 減価償却費には、長期前払費用の償却費が含まれております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
	エネルギー 事業	カービジネ ス事業	ライフサ ポート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,245,456	20,219,454	166,871	424,893	30,056,676		30,056,676
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	113,191	19,604	3,453	32,814	169,063	169,063	
計	9,358,648	20,239,059	170,324	457,708	30,225,740	169,063	30,056,676
セグメント利益又は損失 ()	105,065	120,386	7,679	146,710	364,481	230,004	134,437
セグメント資産	3,465,973	8,031,099	31,289	1,624,785	13,153,147	1,300,403	14,453,551
その他の項目							
減価償却費 (注)3	46,563	609,096	2,412	18,618	676,691	16,880	693,572
特別損失 (減損損失)	2,638		2,939		5,578		5,578
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	15,211	2,969,336			2,984,547	6,466	2,991,013

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 230,004千円には、セグメント間取引消去125,947千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 355,992千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。
 - (2) セグメント資産の調整額1,300,403千円には、セグメント間の債権債務等の調整額 646,984千円、各報告セグメントに配分していない全社資産1,947,388千円が含まれております。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない本社建物及び構築物であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間の振替によるものであります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 減価償却費には、長期前払費用の償却費が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一のため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在する有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一のため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在する有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

1 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(法人)	太田興産(株)	横浜市港北区	90,442	不動産業	(被所有)・直接 26.43	不動産の賃貸借	不動産の賃借	41,788	前払費用	2,872
							不動産の賃貸	9,365	差入保証金	28,681

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
(1)不動産の賃貸借に関しては、近隣の取引実勢相場に基づいて決定しております。
3. 太田興産(株)は、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社にも該当しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(法人)	太田興産(株)	横浜市港北区	90,442	不動産業	(被所有)・直接 26.43	不動産の賃貸借	資金の貸付	100,000	長期貸付金	100,000
							不動産の賃借	34,201	前払費用	1,032
							不動産の賃貸	13,978	差入保証金	25,370

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
(1)不動産の賃貸借に関しては、近隣の取引実勢相場に基づいて決定しております。
3. 太田興産(株)は、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社にも該当しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	双葉石油(株)	横浜市港北区	15,300	石油製品販売	所有・直接 100.00	役員の兼任 資金の貸付 事務の受託	資金の回収	16,284	短期貸付金	16,284
							利息の受取 事務手数料の受取	1,475 9,600	長期貸付金	76,262

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等
(1)運転資金の貸付条件に関しては、市場の金利水準を参考に、取締役会決議により決定しております。
(2)事務手数料については、每期交渉の上、業務委託契約書により決定しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	双葉石油(株)	横浜市港北区	15,300	石油製品販売	所有・直接 100.00	役員の兼任 資金の貸付 事務の受託	資金の回収	92,546	短期貸付金	
							利息の受取 事務手数料の受取	1,219 9,600	長期貸付金	

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 運転資金の貸付条件に関しては、市場の金利水準を参考に、取締役会決議により決定しております。

(2) 事務手数料については、每期交渉の上、業務委託契約書により決定しております。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

該当事項はありません。

2 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社(当 該会社を 含む)	太田興産(株)	横浜市 港北区	90,442	不動産業	(被所有)・ 直接 26.43	資金の貸付	資金の回収	2,000	短期貸付金	2,000
							利息の受取	21		

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

運転資金の貸付条件に関しては、市場の金利水準を参考に、取締役会決議により決定しております。

当連結会計年度(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社(当 該会社を 含む)	太田興産(株)	横浜市 港北区	90,442	不動産業	(被所有)・ 直接 26.43	資金の貸付	資金の回収	2,000	短期貸付金	
							利息の受取	9		

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

運転資金の貸付条件に関しては、市場の金利水準を参考に、取締役会決議により決定しております。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
1株当たり純資産額(円)	825.95	831.52
1株当たり当期純利益又は1株当たり 当期純損失() (円)	77.65	9.41
潜在株式調整後1株当たり当期純利 益(円)		9.20

- (注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期 純損失		
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (千円)	243,233	29,485
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株主に係る親会社株主に帰属する当 期純利益又は親会社株主に帰属する当期 純損失() (千円)	243,233	29,485
普通株式の期中平均株式数(株)	3,132,536	3,132,536
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (千円)		
普通株式増加数(株)		74,000
(うち新株予約権数(株))		74,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調 整後1株当たり当期純利益の算定に含ま れなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,258,298	7,098,870	1.08	
1年内返済予定の長期借入金	202,960	131,960	1.04	
1年内返済予定のリース債務	305,821	315,169	2.47	
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	380,200	124,240	1.27	平成31年5月～ 平成33年1月
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	337,329	387,628	2.47	平成31年5月～ 平成36年9月
合計	7,484,610	8,057,869		

- (注) 1. 平均利率は、期末残高に対する加重平均利率であります。
2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	72,400	46,670	5,170	
リース債務	216,758	118,142	49,524	2,075

3. 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、リース債務に係る平均利率の記載には含めておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,043,475	14,439,590	22,432,490	30,056,676
税金等調整前当期純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額 (千円)	83,822	55,466	22,183	17,351
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	84,235	58,174	28,653	29,485
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	26.89	18.57	9.15	9.41

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	26.89	8.32	9.42	18.56

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	275,205	373,376
受取手形	4,621	3,181
売掛金	¹ 813,606	¹ 789,315
商品	774,970	824,947
貯蔵品	3,220	1,580
前払費用	37,841	39,066
関係会社短期貸付金	746,284	590,000
未収入金	¹ 95,195	¹ 93,233
未収還付法人税等	-	2,951
繰延税金資産	-	28,267
その他	33,941	42,024
貸倒引当金	13,438	13,513
流動資産合計	2,771,447	2,774,432
固定資産		
有形固定資産		
建物	² 744,238	² 690,620
構築物	34,389	25,544
機械及び装置	21,833	20,828
車両運搬具	100,601	154,763
工具、器具及び備品	33,904	27,499
土地	² 4,690,099	² 4,432,926
リース資産	561,786	636,612
建設仮勘定	104,880	-
有形固定資産合計	6,291,734	5,988,794
無形固定資産		
ソフトウェア	5,513	4,382
その他	12,537	12,537
無形固定資産合計	18,050	16,919
投資その他の資産		
投資有価証券	² 25,506	² 34,227
関係会社株式	63,912	33,912
出資金	3,221	3,221
関係会社長期貸付金	76,262	-
長期貸付金	-	100,000
破産更生債権等	9,395	9,395
保険積立金	278,485	263,226
差入保証金	344,086	323,121
その他	28,379	43,582
貸倒引当金	9,417	9,405
投資その他の資産合計	819,830	801,281
固定資産合計	7,129,616	6,806,995
資産合計	9,901,064	9,581,427

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	3 134,093	3 98,439
買掛金	1, 2 810,366	1, 2 819,617
短期借入金	2 4,360,000	2 4,294,000
1年内返済予定の長期借入金	2 202,960	2 131,960
リース債務	302,122	311,470
未払金	1, 2 173,712	1, 2 129,950
未払費用	113,313	103,702
未払法人税等	14,791	14,956
未払消費税等	23,324	57,458
前受金	37,133	24,616
賞与引当金	57,400	77,718
預り金	16,084	15,268
その他	25,747	29,902
流動負債合計	6,271,050	6,109,062
固定負債		
長期借入金	2 380,200	124,240
リース債務	333,014	387,012
退職給付引当金	274,190	281,531
役員退職慰労引当金	93,373	87,485
債務保証損失引当金	125,016	184,624
その他	1 86,736	1 79,591
固定負債合計	1,292,531	1,144,486
負債合計	7,563,581	7,253,548
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,250	411,250
資本剰余金		
資本準備金	462,500	462,500
資本剰余金合計	462,500	462,500
利益剰余金		
利益準備金	30,692	30,692
その他利益剰余金		
別途積立金	1,530,040	1,430,040
繰越利益剰余金	57,406	26,664
利益剰余金合計	1,503,326	1,487,397
自己株式	48,969	48,969
株主資本合計	2,328,106	2,312,177
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,780	13,555
評価・換算差額等合計	6,780	13,555
新株予約権	2,595	2,146
純資産合計	2,337,482	2,327,879
負債純資産合計	9,901,064	9,581,427

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)	当事業年度 (自 平成29年 5月 1日 至 平成30年 4月30日)
売上高	2 13,549,848	2 14,498,902
売上原価	2 10,936,127	2 11,654,079
売上総利益	2,613,721	2,844,822
販売費及び一般管理費	1, 2 2,879,577	1, 2 2,926,907
営業損失()	265,856	82,085
営業外収益		
受取利息	2 10,564	2 7,922
受取配当金	2 12,810	2 12,792
受取手数料	2 173,159	2 156,047
保険解約返戻金	53,991	-
その他	26,025	18,952
営業外収益合計	276,551	195,715
営業外費用		
支払利息	42,975	53,100
その他	2,960	3,916
営業外費用合計	45,936	57,016
経常利益又は経常損失()	35,240	56,613
特別利益		
固定資産売却益	74,349	10,461
新株予約権戻入益	159	449
子会社清算益	-	1,848
特別利益合計	74,509	12,759
特別損失		
固定資産除却損	21,736	16,873
減損損失	45,036	5,578
債務保証損失引当金繰入額	125,016	59,608
役員退職慰労金	-	8,150
特別損失合計	191,789	90,210
税引前当期純損失()	152,521	20,837
法人税、住民税及び事業税	4,605	4,564
法人税等調整額	4	28,267
法人税等合計	4,609	23,703
当期純利益又は当期純損失()	157,130	2,866

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年 5月 1日 至 平成29年 4月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	411,250	462,500	462,500	30,692	1,830,040	175,215	1,685,517
当期変動額							
剰余金の配当						25,060	25,060
当期純損失()						157,130	157,130
別途積立金の取崩					300,000	300,000	-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	300,000	117,808	182,191
当期末残高	411,250	462,500	462,500	30,692	1,530,040	57,406	1,503,326

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	48,969	2,510,297	6,316	6,316	2,755	2,519,369
当期変動額						
剰余金の配当		25,060				25,060
当期純損失()		157,130				157,130
別途積立金の取崩		-				-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			464	464	159	304
当期変動額合計	-	182,191	464	464	159	181,886
当期末残高	48,969	2,328,106	6,780	6,780	2,595	2,337,482

当事業年度(自 平成29年 5 月 1 日 至 平成30年 4 月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		利益剰余金合計
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	411,250	462,500	462,500	30,692	1,530,040	57,406	1,503,326
当期変動額							
剰余金の配当						18,795	18,795
当期純利益						2,866	2,866
別途積立金の取崩					100,000	100,000	-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	100,000	84,071	15,928
当期末残高	411,250	462,500	462,500	30,692	1,430,040	26,664	1,487,397

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	48,969	2,328,106	6,780	6,780	2,595	2,337,482
当期変動額						
剰余金の配当		18,795				18,795
当期純利益		2,866				2,866
別途積立金の取崩		-				-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			6,774	6,774	449	6,325
当期変動額合計	-	15,928	6,774	6,774	449	9,603
当期末残高	48,969	2,312,177	13,555	13,555	2,146	2,327,879

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

(1) 石油商品

先入先出法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

(2) 新車・中古車

個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

(3) カー用品・その他の用品

総平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）及び車両運搬具のうちレンタル車両については定額法とし、それ以外については定率法によっております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物、建物附属設備、構築物 2年～50年

車両運搬具 2年～6年

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却をしております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職一時金について、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 債務保証損失引当金

関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、非保証者の財政状態を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

5 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

(3) ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
短期金銭債権	10,372千円	12,301千円
短期金銭債務	1,579千円	2,204千円
長期金銭債務	4,905千円	4,500千円

2 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ)担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
建物	467,169千円	444,083千円
土地	4,613,974千円	4,356,801千円
投資有価証券	8,074千円	11,466千円
計	5,089,219千円	4,812,350千円

(ロ)上記に対応する債務

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
買掛金	466,814千円	491,930千円
短期借入金	3,260,000千円	3,260,000千円
1年内返済予定の長期借入金	96,000千円	50,000千円
未払金	11,092千円	11,141千円
長期借入金	174,000千円	千円
計	4,007,907千円	3,813,071千円

3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
支払手形	62,876千円	33,034千円

4 保証債務

次の関係会社について、取引先への仕入債務及び金融機関への借入債務に対して、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
(株)モトーレン東洋	仕入債務及び銀行借入債務 1,591,704千円	仕入債務及び銀行借入債務 2,069,406千円
(株)モトーレン東洋		
メトロポリタンモーターズ(株)	仕入債務 713,746千円	仕入債務 1,292,507千円
メトロポリタンモーターズ(株)	銀行借入債務 600,000千円	銀行借入債務 400,000千円

上記金額については、債務保証額から債務保証損失引当金を控除した金額を記載しております。

また、債務保証損失引当金を控除しているため、仕入債務と銀行借入債務を合算した金額にて記載しております。

次の関係会社について、仕入先に対する営業債務に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
(株)モトーレン東洋	営業債務全般 極度額なし	営業債務全般 極度額なし
メトロポリタンモーターズ(株)	営業債務全般 極度額なし	営業債務全般 極度額なし

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成28年5月1日	(自	平成29年5月1日
	至	平成29年4月30日)	至	平成30年4月30日)
給与・賞与		800,536千円		819,276千円
雑給		395,126千円		374,325千円
賞与引当金繰入額		55,322千円		69,336千円
退職給付費用		36,335千円		32,803千円
地代家賃		425,546千円		433,671千円
減価償却費		130,321千円		133,318千円
おおよその割合				
販売費		6.0 %		6.6 %
一般管理費		94.0 %		93.4 %

2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成28年5月1日	(自	平成29年5月1日
	至	平成29年4月30日)	至	平成30年4月30日)
売上高		77,879千円		75,928千円
仕入高		7,487千円		7,188千円
販売費及び一般管理費		13,288千円		12,624千円
営業取引以外の取引高		148,113千円		153,954千円

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年4月30日)

子会社株式(貸借対照表計上額63,912千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成30年4月30日)

子会社株式(貸借対照表計上額33,912千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
繰延税金資産		
(短期)		
賞与引当金	17,374千円	23,346千円
未払事業所税	1,956千円	1,799千円
貸倒引当金	4,067千円	4,059千円
未払事業税	3,060千円	3,122千円
棚卸資産評価損	12,701千円	4千円
小計	39,161千円	32,332千円
(長期)		
退職給付引当金	82,366千円	84,572千円
役員退職慰労引当金	28,049千円	26,280千円
関係会社株式評価損	66,086千円	66,086千円
投資有価証券評価損	359千円	359千円
減価償却費超過額	4,269千円	4,664千円
減損損失	14,703千円	6,880千円
会員権評価損	7,162千円	7,162千円
債務保証損失引当金	37,554千円	55,461千円
繰越欠損金	163,074千円	167,148千円
その他	11,976千円	12,616千円
小計	415,604千円	431,233千円
評価性引当額	454,765千円	435,297千円
繰延税金資産計	千円	28,267千円
繰延税金負債		
(長期)		
その他有価証券評価差額金	1,324千円	2,625千円
その他	738千円	738千円
繰延税金負債計	2,063千円	3,364千円
繰延税金資産純額	2,063千円	24,903千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当事業年度 (平成30年4月30日)
法定実効税率		30.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		4.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		20.2%
住民税均等割等		21.9%
その他		3.8%
評価制引当額の増減		93.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		113.8%

(注) 前事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,787,040	3,127	37,822 (2,939)	47,002	1,752,344	1,061,724
	構築物	357,295		11,572	7,129	345,722	320,178
	機械及び装置	195,183	5,689	8,350 (739)	5,790	192,522	171,694
	車両運搬具	170,522	314,938	258,339	50,233	227,120	72,357
	工具、器具及び備品	179,810	2,158	7,395 (69)	8,105	174,572	147,073
	土地	4,690,099		257,172		4,432,926	
	リース資産	1,236,089	416,037	496,008 (1,829)	295,446	1,156,119	519,507
	建設仮勘定	104,880		104,880			
	計	8,720,921	741,950	1,181,543 (5,578)	413,707	8,281,328	2,292,534
無形固定資産	ソフトウェア				1,131	7,955	3,572
	その他					12,537	
	計				1,131	20,492	3,572

(注) 1. 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

資産の種類	内容	金額
車両運搬具	試乗車及びレンタル車両	314,938
リース資産	レンタル車両の調達	416,037

2. 当期減少額のうち、主なものは次のとおりであります。

資産の種類	内容	金額
建物	カーディーラー店舗	37,822
車両運搬具	試乗車及びレンタル車両	258,339
土地	小田原市国府津	257,172
リース資産	リース資産の買取	494,178

3. 当期首残高及び当期末残高については、取得価額により記載しております。

4. 「当期減少額」欄の()は内数で、当期減損損失計上額であります。

5. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	22,856	419	358	22,918
賞与引当金	57,400	<u>77,718</u>	57,400	<u>77,718</u>
役員退職慰労引当金	93,373	7,391	13,279	87,485
債務保証損失引当金	125,016	59,608		184,624

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで
定時株主総会	7月中
基準日	4月30日
剰余金の配当の基準日	4月30日、10月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行います。 電子公告掲載URL http://www.sunautas.co.jp/top.html ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株主に対する特典	該当事項はありません

(注) 当社は単元未満株主の権利に関し、定款で次のとおり定めております。

第8条(単元未満株主の権利制限)

当社の株主は、その有する単元未満株式について、以下に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書
事業年度 第66期（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日） 平成29年7月25日関東財務局長に提出。
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
事業年度 第66期（自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日） 平成29年7月25日関東財務局長に提出。
- (3) 四半期報告書及び四半期報告書の確認書
第67期第1四半期（自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日） 平成29年9月14日関東財務局長に提出。
第67期第2四半期（自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日） 平成29年12月15日関東財務局長に提出。
第67期第3四半期（自 平成29年11月1日 至 平成30年1月31日） 平成30年4月18日関東財務局長に提出。
- (4) 臨時報告書
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づ
く臨時報告書
平成29年7月28日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年7月24日

株式会社 サンオース
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士 佐山 正則
指定社員 業務執行社員	公認会計士 田中 章公
指定社員 業務執行社員	公認会計士 桐山 武志

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンオースの平成29年5月1日から平成30年4月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社サンオース及び連結子会社の平成30年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成29年4月30日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して平成29年7月25日付けで無限定適正意見を表明している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社サンオータスの平成30年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社サンオータスが平成30年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年7月24日

株式会社 サンオータス
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士 佐 山 正 則
指定社員 業務執行社員	公認会計士 田 中 章 公
指定社員 業務執行社員	公認会計士 桐 山 武 志

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンオータスの平成29年5月1日から平成30年4月30日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社サンオータスの平成30年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成29年4月30日をもって終了した前事業年度の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して平成29年7月25日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。